第５章

被災者の証言

台風第１９号の被災体験を語り合うワークショップ（袋田地域防災センター）

水郡線を復旧し沿線を元気に

ＪＲ東日本水郡線統括センター　高橋利一さん

運休の判断

かなり大きな台風、雨を伴う、風も強いということで、水郡線は前日の１０月１２日１５時をもって全ての列車の運転を打ち切るという判断をいたしました。お客様の安全や命を預かるという職種においては安全運行が第一でしたので、前日１２日の１５時３０分で運転中止、また台風が直撃すると予想されました１３日も始発から全て列車の運転を取りやめ、バス代行も一切行わないということで、ご迷惑をかけたと思うんですが、これは事業者として正しい判断だったと思っております。

過去の水害を活かした対策

１３日の朝方に、第六久慈川橋梁を見に行きました。橋梁が崩落しているのは確認できたのですが、落ちた橋げたがない。水かさが上がって橋げたが川の中にもぐっていたという状況だったというのは特別に印象にあります。橋げたが７基流されており、その橋げたを支える橋脚も６脚あったんですが４脚が流されて、横たわっている状態でした。

水郡線の車両ですが、幸いにして一切の被害がありませんでした。北陸新幹線の長野の方で台風とか河川増水で新幹線車両が水没したときの教訓を生かしまして、水戸駅の方に回送させたり郡山に持って行ったりということで、全ての車両を疎開させました。

ただ通信手段は被害を受けました。今どういう状況なのか、正確な状況や情報を取ることや、水戸の災害対策本部の方で、どういう考えとか動きをしているのかっていう情報を得るのがものすごく苦労したと覚えています。

線路が切れたことによる弊害

橋梁が崩落したということで、水郡線は袋田から水戸よりの線路と、常陸大子から郡山の方と、２つにわかれてしまいましたので、個別の車両の整備の点検にものすごく支障をきたしました。また（疎開させた）車両は線路がつながっていればまた戻せばいいだけなんですが、線路が切れてしまったため、例えば常陸大子・郡山間の車両が足りない。一方、水戸・袋田間の方については車両が余ってしまうというアンバランスな輸送提供になって

しまいました。そのため、常磐線でいわきを回して、そこから磐越東線を経由し郡山まで戻して、郡山から水郡線で大子に戻す、といった経験したことないような調整をしたなっていう記憶があります。

あとは、車内のトイレです。トイレの汚物処理は常陸大子の施設で行っております。線路がつながっていませんでしたので、汚物の処理ができず、トイレが使えませんっていうのもかなり続きました。どうしても我慢ができないお客様は駅に止めて駅のトイレをご案内したり、バキュームカーを持ってきて、車両に直接繋いで汚物を抜いたり、あとは常磐線の勝田の車両基地を借りて処理をしたり、少しでもお客様にご迷惑をかけないように対策をとっておりました。

水郡線の早い復旧を目指す

ある程度、雨や風もおさまりまして、設備等の緊急点検を行いました。１年６か月、橋の崩落の復旧工事を進めまして、令和３年の３月２７日に全線運転再開しました。地域の足ということで、一刻も早い復旧というのが事業者としては当たり前に思うところなんですが、みんなで思っていたのは、水郡線が運転再開することで、皆さんを元気づけられればっていう気持ちです。不眠不休の復旧作業というのが続いてたなっていう風に思います。

協力して復興へ

新型コロナウイルスもありまして、お客様の数は全然戻ってないです。水郡線をこれから未来にわたって残していくというのは私たち事業者の責務になりますので、今の内からできること、取り組むことがあるはず。つくづく思っています。ＪＲ東日本単体だけでは、難しいので、沿線の皆様や同じ交通事業者、そういった方と連携を組んで１＋１は２じゃなくて３になるとか４になるとか、沿線のみんなが手を取り合って、そのエリアを元気にする、活性化していけば、自然に水郡線の利用者だって増えるだろうと思います。

これからも地域のみなさまと極力連携を取り合って進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

被災後の水郡線第六久慈川橋梁

全国からのボランティア

益子さや子さん

自然豊かな大子

大子町は自然が多く町の面積の８割が山林です。茨城県一高い八溝山に鮎釣りができるほど綺麗な１級河川の久慈川が町の中心を北から南に流れています。 山が多ければ土砂災害の危険性が高くなるし、町の中心地を川が流れれば水害で生活拠点にダメージを受ける事は想像がつきます。

ボランティアが必要とされた

令和元年台風の水害の時、私は大子町社会福祉協議会が立ち上げた災害ボランティアセンターで活動をしました。電話によるボランティア依頼の受付や申請書の整理・現地地図の作成などです。土地勘が無い町外の社協職員さんのフォローをさせていただきました。

実際の被害件数から見てもボランティアセンターへのニーズ依頼件数は最初は少なかったと思います。町民への災害ボランティアセンターの認知度の低さも在りますが「人は頼らず自分たちで何とかするんだ」と頑張っていた人がとても多かった事を知った時は驚きと悲しい気持ちになりました。

壁をぶち破るほどの水の勢い

大子町での浸水被害の件数は約５００件でした。大子町に限らず県内外でも多くの住宅に被害が出ましたが、上流と下流では浸水被害にも特徴があるらしいですよ。大子町の様に上流地域だと兎に角水の勢いが凄いらしく、被災した人の話しでは表から流れ込んで来た水が裏の扉や壁を破壊して出て行ったと聞かされた時は言葉が出ませんでした。

特徴はもう一つあり、水嵩が一気に上がり一気に下がる事です。浸水家屋の床下に溜る泥の量が下流地域よりも比較的少ないとボランティアさんが教えてくれました。

ボランティアの方がたくさん来てくれた

町外の社協の職員さんが２～３名ずつ交代で大子まで毎日通い災害ボランティアセンター運営の応援に入ってくれていました。また私が所属する日本赤十字社茨城県支部の防災

ボランティアリーダーの皆さんも連日、センター運営の手伝いに県南・県西からもかけつけていただいたこと本当に心強く感じました。資材置き場の管理をやってくれました。全国から届いた物をボランティアさんに貸し出して作業をしてもらうんです。泥汚れを洗い、翌日の作業に少しでも早く出掛けられる様に置き場の整理をやってくれました。

勿論、町内外からもボランティア活動に参加してくれた人、貴重な休みをボランティア活動に充ててくれた人、そして運動部の仲間と来てくれた高校もありました。活動の後半は高齢のボランティアさんから小学生や女性の団体も家財品の運びだしの後の清掃作業に活躍いただき大変助かった事を思い出します。

伝えていくこと、備えること

やっぱり自然の災害・水害って起こってしまうと町中が本当に大変になります。今回の様に町役場が水没したため限られた職員数で現地調査や役場の片付け作業や窓口のお客様対応といっぱいいっぱいで仕事をこなしていた様子を思い出しますよ。

私は防災士として水害後、何度か講演活動をする機会がありました。そんな時は先ず冒頭で大子町の紹介と水害の様子を伝える様にしています。自分たちが経験したことは、語り伝える事で次への備えに繋がって欲しいからです。

災害を自分事として捉えてほしい

近場でボランティア活動の機会があれば参加することをお勧めします。現地で見たり聞いた事はきっと何らかの形で影響があるはずだからです。

今はネットの普及でその場所へ行かなくても、直接会わなくても情報を手に入れることが出来ますがリアルに災害を見たり聞いたりする事で今起きてる災害を自分事として捉えてほしいです。

水害の記憶を後世へ

久野瀬在住　益子恭平さん

車が通らずいつもと違う夜

私の家は国道１１８号に面しており、久慈川より約１００メートルほどの距離にあります。台風１９号の当日夜１０時過ぎ、車の通行音がなくなり静かな為窓を開けましたところ、家の前の小川が満水状態でした、久慈川の異変を感じ家族を起こし避難することとしました。

車で避難する時には国道も冠水が始まりかけておりました。避難先ＪＲ袋田駅わきのコミュニティセンターを考えましたが、明治２３年の久慈川洪水で現在の駅周辺は水没したことを聞いておりましたので、高台の知人の家に避難いたしました。

自宅は建て替え前、茅葺屋根の高床式で小さな子が歩けるほどでした。それは過去の洪水対策だったのではないかと思います。現在の家は一般的な土台の高さのため、今回床上浸水となってしまいました。

大子町には３つの災害伝承碑

「可恐（おそるべし）の碑」と呼ばれている石碑が大子町に３つあります。これらの碑は明治２３年８月７日に発生した久慈川の大洪水の状況を後世に伝えるため建てられた石碑です。１つは袋田駅近く、２つ目は久野瀬諏訪神社脇、３つ目は池田地区の国道１１８号脇にあります。

袋田駅近くの碑には「可恐」の題名と近辺の被害状況が刻まれ、久野瀬諏訪神社脇の碑には洪水が石碑のところまで到達したことと久慈川の増水量が刻まれおり、池田の碑には洪水の状況や被害内容が詳しく刻まれております。久野瀬諏訪神社脇の碑と池田の碑は洪水到達地点に現在もありますが袋田駅近くの碑はＪＲ水郡線開通工事の為、約１０メートルほど高い現在の位置に移動したと聞いております。

台風１９号の洪水到達点が久野瀬諏訪神社脇の碑と池田の碑とほぼ同じですので洪水による久慈川の増水量は同規模であったと考えられます。

伝承碑は忘れられていた

これらの石碑は令和元年の台風１９号による洪水が発生するまで忘れられ、明治２３年の洪水より１００年以上が過ぎ地元の人達に伝えられる事はなくなっていました。明治２３年の洪水浸水家屋は２５０軒、台風１９号による浸水家屋は５８８軒と倍以上ですがこの違いは人口が大幅に増えたこともありますが、洪水の被害を受けた地域に新たに家を建てた方が多くいたことも大きな原因だったと思います。洪水被害の伝承がされなくなると同様な被害が繰り返されることとなるわけです。

被害を後世へ

「可恐の碑」は明治２３年の洪水被害を後世に伝えるために建てられたにもかかわらず台風１９号では教訓とはなりませんでした。台風１９号の被害が明治２３年の洪水と同様の大きな被害をもたらしたことで改めて見直されることになりました。また、国土地理院の自然災害伝承碑に掲載されたことで現在は見学に訪れる方が時々おられます。

久野瀬諏訪神社脇の「可恐の碑」と同位置に台風１９号の被害を刻んだ新しい「可恐の碑」を建立いたしました。今後も災害伝承として守っていきたいと考えております。

また、上記の３つの石碑のうち袋田駅近くの碑は現在、元の位置にはありませんので今後元の位置と推定される場所に移動したいと考えております。

久野瀬諏訪神社にある明治２３年の可恐の碑と台風第１９号の碑

牛のことを考えて避難は難しい

矢田在住　益子賢さん　益子隆嗣さん

※音声記録がないため、聞いた内容をまとめさせていただきました。

益子賢さん

水害の多い土地

父親がしていた酪農を引き継ぎ、５０年間酪農をしています。

当日は雨はそれほど降らなかったです。自宅近くは川幅が狭いため、何度か水があふれているものの、床上まで来たのは今回が初めてです。

牛を落ち着かせるために牛舎で一晩

当日は午後から台風に備えて牛舎で準備をしていました。夜７時頃、一気に水が来ました。いつも川岸のブロックで水の量や上がり方を見ているのですが、今回は１時間で１ｍ上がりました。牛を落ち着かせるため牛舎にいましたが、水は牛舎で１ｍ８０ｃｍまできました。牛舎が水圧で強く揺れました。牛は犬かきのように首を出して水に浮いていましたが、そのうちサッシが割れて水とともにゴミが流れてきました。牛はゴミが顔に当たって嫌がりますが、下を向くと水に浸かってしまいます。当時牛は２８頭いて、８頭が死亡しました。一頭は水に流されて見つかっていません。

近所の人が呼んでくれて、朝４時頃、消防が救助に来ました。牛たちは水が来ると嫌がって暴れるのですが、私がいると落ち着くので、避難するつもりはありませんでしたが、消防の人のボートで一度離れました。

水の引きは早かったです。自宅は水びたしになりましたが、牛舎の対応が優先なので、自宅は親戚に任せて牛舎の片づけをしました。水が来る直前に搾乳をしたため、乳房炎になる牛はいませんでした。

益子隆嗣さん

避難が難しい

今回は水の上がり方が速く、牛の避難はできませんでした。トラックの手配や人員不足という問題があります。

当日、家族（奥様とお子さん）は避難しましたが、私は父親と牛舎に残りました。自宅は川のそばで、川の階段が１２段あるので台風のときはいつもその数で水位を見ています。家族が避難するときにはすでに道路が冠水していて、どこが道かわからない状態でした。いつもの記憶と勘で車を運転して避難しました。

牛は水を怖がって暴れるので、私が声をかけて落ち着かせました。普段世話をしているので、声をかけると牛も安心して落ち着きます。はじめは足首くらいでしたが、どんどん水が増えるにつれ、柵に１段ずつ上がり、最後は梁に上りました。牛は犬かきのような状態で浮いていました。丸太が流れてきて牛舎にあたり揺れました。そのうちサッシが割れて、ごみが水と一緒に入ってきました。朝４時頃に消防に救助され、４時半ころ戻ったら水はほぼ引いていました。

被災後は親戚や酪農仲間の力を借りた

補助金申請のために片付け前に写真を撮りました。被災の次の日からは酪農仲間が来て、片付けを手伝ってくれました。そのため牛舎は１週間で再建できました。ただ古い牛舎はまだ片付けができていません。

自宅を新築して１年半でした。今も外壁に水の跡が残っています。外の蔵は水で流されて位置が変わっていました。床下は、常総市での浸水後の子供への健康被害の例を聞いて、リフォームをしました。２階は無事だったので、避難所へは行かず、片付けの間は２階で生活しました。１階は使えないので、お風呂は温泉、洗濯はコインランドリー、食事はパンやカップラーメンでした。お金がたくさんかかったし、パンやカップラーメンはたくさん食べたのでもう食べたくないです。

水害の時は川の内側にたくさん竹が生えていて、流れが悪くなっていました。堤防の計画がありますが、この辺りはまだ先のようです。ただ、堤防が完成した後、もし水が入ったら今度は出ていくところがなくなるのではないかと心配も残ります。また水が来たらこの辺りは人がいなくなるのではないでしょうか。私も酪農は止めるかもしれません。

水が引いた後の牛舎内

サッシの割れた牛舎

水害により意識の変化も

大子在住　吉原和伸さん

水害の前後で変わったこと

当時、ここは目の前が久慈川で、まさに被害があって半壊扱いっていうか、床上もう６０ｃｍぐらいまでいっちゃって。それで本当に復旧作業でしばらくかかったんですけども。やっぱり生まれて初めてのことだったんで。今まで本当に他人事だと思ってたんですよ。だからそこで１つ、誰でも起こるんだなって、意識の変化。あともう１つは、全部流されちゃったんですよ、思い出のアルバムとかレコードとか。ここの２階に残ってるもの以外全部。レコードは、私２００枚ぐらいコレクションとしてあったんだけど、全部。それで当時はショックだったんだけど、逆に断捨離じゃないけど、もうそういうものいらないっていうやっぱり自分の中で、積み重ねじゃなく積み減らしたことで、何か見えてきたというか。別にそんなのなくてもと、そういうような意識は出ましたね。やっぱり失ったことで、逆に言ったら身軽になったというかですね。

ここって中古で買ったんですけど、前住んでた方が２回、水害にあって、水戸に家買って、ここをぶっ壊して。そのときの教訓で１階部分を上げたんです。隣はもう住んでないんですけど、あそこも全部、ここ本当に湖みたいになっちゃったんですよ。だから６０ｃｍで済んだんですけど、もし１階部分をそのままだったらここも駄目。

被害後の片付け

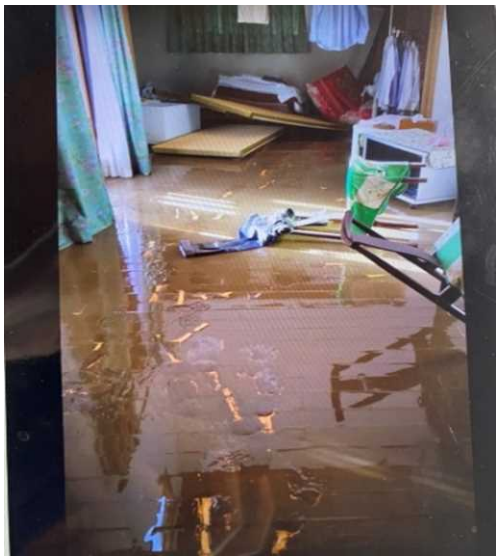
ボランティアの方も来てもらったんですけど、もう私のとこはいいからと。私の方は良い方なんですよね、みんな２階全部いっちゃってるから。別のとこ行ってもらって、１人で（片付けをした）。１０月１２日に水害で、結局年末まで。お風呂も全然入れなかったから、町の方で温泉あるんですけど、あそこ無料で開放してくれてたんで、毎日温泉通って。あとね、洋服、下着。それも役場の方で無料でボランティアの方が、下着とか支給してくれて助かりましたよ。

今後の大子町に期待すること

やっぱり今の若者の方は芸術とか、そういうのでいろいろいらっしゃってるんで、だから若い人が何か成長できる場所を。もう大子駅も廃線になるとかあるじゃないですか。そういうことよりも（若者に力を入れてほしい）。

占いで地域おこしを

大子町の最初の地域おこし協力隊です。占い師になって１０年目が平成２６年で。１０年目だから、何かちょっと変えたいと思って。で、地域おこし協力隊に占いで町おこしみたいな企画出したら大子町だけ唯一採用されたんです。それで平成２６年からお世話になって。協力隊のときは平日はわさびの復活作業をして、土日はカフェで占い。で、平成２９年に任期終わってここ買ったんですよ。



ご自宅の様子

早めの避難を決断

老人保健施設やすらぎ　金澤邦芳さん

あっという間に水が流れ込んできた

台風１９号、南東からかつてない猛烈な台風が１２日夜半に日本列島を襲いました。当施設は２階建ての建物ですから、まずは１階の利用者を早めに２階に避難させた方が良いのではないかということで、午後２時に１階の利用者を全て２階に運びました。

久慈川が氾濫したのが午後８時頃、駐車場にじわじわじわと押し寄せてきたのが１１時半頃。「２階から駐車場見たらどんどんどんどん水が流れてきました。２０分ぐらい。あっという間ですよ。施設の中に水が流れ込んできちゃいました。恐ろしくなりました」っていうのを夜勤の職員が言ってました。それから浸水した時点で停電になっちゃいました。エレベーターも使えなくなり、それから階段や通路にあるドアが水圧で動かなくなり、それでだいぶ職員がおっかなくなっちゃったって言ってましたね。それで、うちの方のいろんな受電設備の機器が水没しちゃったんですね。それで停電になった。それから受水ポンプも浸水しちゃいまして、使えなくなって水が供給できない。電気も供給できない、水も供給できないで、あらゆるものが不足していって。

早めの避難が重要

利用者には幸い人的被害がありませんでした。早めに避難させた方がいいです。夜中の夜勤者は４名しかいませんから、避難が遅れてたら人的被害が出たんじゃないかっていう大変な思いをしました。いつも言われることですけど、早めの避難、これはなかなか決断できない。もう少しもう少しってこう思うんですけども、雨はまだ降ってないときにね、避難してそれで早く行っちゃったらなんだってなっちゃうんですけど、うちは万が一のことを考えて早めに２階に利用者を移動させたおかげで人的被害はありませんでした。

それから建物被害はですね、うちの方の施設は鉄骨のコンクリートでかなり頑丈にできていたものですから、建物被害は少ないです。ところがですね、１階部分のいろんな設備機器は、壊滅状態ですね。ベッドから高齢者の入浴設備、そういうもの使えなくなっちゃいました。冷蔵庫、電気設備、電気関係のパソコンプリンター全滅です。車も１回水に浸かったら使えなくなっちゃいますし、これには私も職員もパニック状態になりました。も

うどっから手をつけていいかわからないというような、大変な思いをしました。

人的被害がなかったのはやはり早めの避難。職員が多い日中の避難。これが今回の一番の大きな要因です。

避難させたベッド

被災後の施設内

地域の医療を支えるために

医療施設　栗山洋一さん

損害は億単位に

病院が１メートル前後ぐらいまで浸水しました。１階はもう全滅状態ですね。自動車だけでも６台水没しました。修繕と医療機械の損害が億単位で、資金繰りにも苦労したのが実際です。

一からの診察

４日ぐらいたって何とか診療ができるようになったんですが、医療機械もなければ、医療資材も何もないですから、質の高い医療っていうのは全くできない状態です。完全に復旧っていうことになると、半年経ってるんですね。半年間はエレベーターなしで病棟２階にみんなで患者さん運んだり、給食を運んだり、人海戦術で対応しておりました。

カルテがないので、一から診察をして、処方箋、薬を出すという診察になっちゃいましたので、ものすごくドクターも時間がかかって、薬も何を出していたのかもわからなかった。当時はそれが１番医療従事者にとっては悩みの種でしたかね。

多くの人に支えてもらった

よかったのは東日本大震災の経験を生かして、発電機を屋上に持っていっていたので、電源を確保できたことですね。それと、給食会社と契約していたので、食材を調達できたり、キッチンカーを寄越してくれたりで、病棟機能を何とか維持することができました。入院患者さんを１人も他に転院させずに診察できたところも良かったと思います。水戸と古河の日赤の病院から災害支援チームの方たちが来てくれたおかげで、院長も災害復旧にちゃんと指揮をとることができたということが非常に助かりました。

ガソリンも医師会で優先的に給油できる制度ができていて車は使えました。ただ全部浸水してしまったので、日産のディーラーさんからレンタカーを車が納車されるまで貸してもらいました。車がないと本当に困っちゃいますんで助かりましたね。

あと行政による支援がこんなに手厚いんだなっていうのはびっくりしましたね。助成金とか補助金とか修理代とか、いろんな案内をしてくれて、こんなにいろいろお金を出して

くれるんだなっていうのが１つありました。それから、自分たちの職場だって甚大な被害を受けたのに自宅に来てくれて、体の容態どうですかと、何か悩みありませんかっていうようなことを、役場の職員の方が聞きに来てくれたり、そういうことが心の支えになりましたね。ボランティア活動、社会福祉協議会含め、ＮＰＯ、こんなにボランティアの人たちも来てくれたんだっていうね。そこがものすごく印象的でしたね。

家財道具はほとんど全滅ですし、庭なんかも瓦礫の山になってたんですね。それを力のあるボランティアの方が片付けて、ゴミの片付けとか泥のかき出しとかしてくれて、本当に助かりました。孤立無援じゃないっていうことを感じさせてくれる人たちでしたね。特に大子町なんか高齢者が多いですからね。非常に助かったんじゃないでしょうかね。一人暮らしの世帯が何百人も、何百世帯もありますからね。

水害後の動き

この地域の４つの医療機関が全部浸水したとき、高台にどこか病院を共同で設立したらどうかという話も出たんですけど、それが完成するまでに、かかりつけ患者さんの診療はもとより職員と家族の生活を誰が保証するのかという問題もあり、病院を高台に作るっていう話は頓挫してしまったという。医療機関の場合、制約があるということで、これからの課題になるんじゃないでしょうかね。

水害があった後、ＢＣＰ（災害時に業務を中断しないための対策）プランを作りました。それを作って従業員に告知をしたのと、とにかく大事なものを高いところに上げると。データのサーバーとか、カルテとかそういうものもなるべく高いところへ持っていって、室外機なんかも、みんな架台の上に置いてるんですけどね。

本当は高台に移転するのが一番安全なんですけど。資金的なものとスケジュール、時間的なことでそれはできませんでしたね。

非常時に地域の力が活かされた

しょっちゅう回覧板を持ってったりとか、決まった日にみんなで草刈りをしたりとかそういう（普段の）コミュニティ活動みたいなのは、水害のとき良かったんじゃないかなって思いますね。高齢者夫婦が取り残されちゃって、お隣の若い夫婦が住んでる家にはしごを渡して、それで避難させてもらってましたね。田舎の良さというかね、人付き合いの密度が濃いっていうのは活かされたかなって思いますね。

音やにおいを思い出す

池田在住　髙瀬一仁さん

五感から蘇る被害の記憶

１２日の夜、１０時半に実家の方に向かいました。車では行けないので、徒歩で向かったんですけど、既に水が入ってたんです。腰以上のところまできてて、何もできない状態でした。実家の方の様子を見て父親の安否確認をしたんですけど、どうにもならない状態で、テレビも一台だけしか上げられない状態で、とにかく夜が明けないとなにもできないってことで。帰りがけにいろんなところを回って、駅の方も心配で様子を見ながら帰っていた中で、車のクラクションがずっと鳴っていたのを記憶しています。

五感であの時の被害の記憶っていうのを考えるといまだに鮮明に蘇ってきます。あと匂いです。まいんの隣の方は油が浮いていたんです。灯油か重油かわからないですけど、とにかく油が流れていて、それが肌にぬめって入った瞬間に足元から服の方までまとわりついてきて、その刺激臭と、あと泥の異臭とか、あとは音ですね。クラクションがあちこちで鳴って。ショートするんですよね、車の防犯アラームは。それがバッテリーが切れないと鳴り終わらない。役場の駐車場の公用車が、クラクションずっと鳴りっぱなし。あと病院の駐車場も同じ状態。ほんとに、音もにおいも肌触りとか、その冷たさ、水の変な生ぬるさもあったんですけど、空気感とかっていうのをいまだに覚えています。

後から気付く被害も

車の話なんですけど、うちは高台にあるんで被害はなかったんですけど、家内の車が冠水した場所を走ってしまったがために、１週間経ってからショートみたいな形で勤務先に向かっている途中で動かなくなってしまったということで。レッカーも予約がいっぱいで、１週間以上置きっぱなしにしていただいて、夜中に運んでディーラーに持ってったんですけど、ディーラーもＥパワーとかハイブリッド車のバッテリー積んだ車がずらーって並んでて、もう廃車っていうことで。全く関係ないところにいるようで、でもやっぱり被害がかなりあったなっていうのを覚えていますね。

さまざまな課題とジレンマ

あとはゴミ出しをずっと３カ月にわたってやっていた中で、最初は気が張っているので頑張れるんです。１日何回行っても大丈夫なんですけど、食料がなくなってくる、どうしようとなって、スーパーも被災してやってない。とにかくあるもので済ませようっていうことで、炊き出し、まいんでやってるから行ってもらってくる。けど他の人はわかんないだろうなと思ってＳＮＳで発信する。来られる人はいいけどたぶん見てない人はわかんないよね、って言ったり。で情報伝達もすごく心配でした。私ができることと言ったらＳＮＳでこういう状況だというのを発信すること、で知ってもらうこと、メディアに取り上げてもらうこと、っていうことで心がけてやってたんですけど、やっぱり疲労もたまってきます。疲れもたまってきて、最後はいろんなところで不満も出てくるんですよね。誰にぶつけていいんだかわからない。心のつらさっていうのはだんだん溜まってきて、それを吐き出す先がないんですよね。家族はみんながんばろうとするんですけど、いざやっぱり１日疲れて帰ってくると寝る場所がないんですよ。実家にはもう寝る場所なんかないので、うちの方に家族は泊まって、っていうことで３か月それが続いたんですけど、いざ今度住む場所どうする、ってなったときにアパートもいっぱいでないんですよね。そういったジレンマをかかえながらいろんな課題にその場その場でぶつかっていったのをいまだに覚えてますね。それがまだ課題だと思います。いろんなところでそういう思いをかかえながら被災した人たちは、できることはみんなで協力してやってたので、お互いに大変だったけど食料持ってってくれた人もいるし、会社の同僚の方が休みの日に手伝いに来てくれた日もあったりとか。ほんとに自助作用っていうんですか、自分たちでできることをとにかくやるしかなかった状態がしばらく続いてました。

１２日夜の様子　※

ゴミの集積場の様子　※

想定外の被害だった

大子町消防本部　佐藤栄作さん

隊員で総力をあげて

当日は、台風が来るということで警戒はしてました。夕方１５時くらいから時間を追うごとに、地域住民の方から、沢があふれたとか、土嚢くださいとか、そんな通報が入ってきました。だんだん夜にかけて、それが救助要請に変わってきたのを覚えています。夜に入る前に非常事態ということで、休みの隊員も含め全職員で対応に当たりました。２１時頃から一気に救助事案が増えて１０数件近くありまして、それを隊員３，４人くらいで手分けして活動しました。自分も署に帰ってきたのは朝方でした。

今まで浸水したことがない地域は、普段はそこに水が来たことがないんで、いきなり来て逃げられなくなってしまった方が多く、ひざ下くらいの深さまで増水し、歩けなくなってしまって助けてくださいというのが多かったですね。怪我とかではなく、家から出れなくなったっていうのが多かったです。家の周りが若干低くなっている土地だと、家から出られない。でも道路まで行くと歩ける、というような状態のような救助要請も多くありました。

想定外の被害

写真のこの車は被災してこの上に逃げ遅れた方が２名いた車両です。もう１枚の写真は奥にトラックがありますがこれは、店と国道１１８号線の間が駐車場で、幅２～３０メートルが濁流になってまして、トラックの下に写っている電信柱に車が引っかかってその上に逃げ遅れた方が２名いたという状況でした。消防本部ではこの時間多数の救助事案が発生し、隊員がなかなか現場に向かえなかったっていう状況がありました。また、出場した隊員も２，３名での活動で、濁流のため対応できなかったので、救助に時間を要しました。ここが濁流になるのは想定できなかったので、救助に大変苦労した事は思い出に残っています。人も流されるような水の勢いがあり、道路のアスファルトがはがれるような場所もありました。

水に流された車の上に救助を待つ人がいた　※

水の力で倒れたフェンス　※

情報を共有しながら被災者に寄り添う

大子町社会福祉協議会　松川明子さん　神長美咲さん

責任の重さと不安を乗り越え

ボランティアセンターの運営についてお話しさせていただきたいと思います。社会福祉協議会は大子駅前の文化福祉会館まいんにありまして、役場の近くです。敷地内の駐車場までは水がぎりぎり来なかったので、被害はありませんでした。１２日に水害が発生しまして、翌日の１３日に職員が集合し、災害ボランティアセンター立ち上げの準備をしました。

また、社協で運営している事業所も被災した事業所があったので、そちらの事業所を片付ける職員もいました。常総市や広島の水害の時に大子社協の職員もボランティアセンター運営の手伝いに行っていたので、少し知識はあったのですが、まさか大子町がここまで水害の被害にあうとは思わなくて、１３日に集合した時には職員全員が不安に思っていたと思います。そんな時に、茨城県の社会福祉協議会の職員の方に駆けつけていただいて、ボランティアセンターの運営の助言とかお手伝いをしていただきました。また、東海村社協さんは、ボランティア活動で今後スコップとか一輪車とか必要になるよ、ということですぐにそういう資材を持ってきてくれました。徐々に水害被害の状況が分かるにつれ、ボランティアセンターが担う役割の重要さに押しつぶされるような気持ちと、大子社協は職員の人数が少ないので少ない職員で対応ができるかな、という不安が大きくなっていました。でも被災された方はもっと大変なので、頑張らなきゃいけないっていう気持ちももちろんありました。

活動依頼の判断の難しさ

１４日はボランティアセンターの準備をして、１５日にボランティアセンターの開設とボランティアさんの受け入れを行いました。運営していく中で大変だったのが、被災した方からの活動依頼をどこまでボランティアセンターで行っていいのかという判断をすることです。一般の方にボランティアさんで来ていただいているので、あまり危険なことはできない、というところがありましたので、その時は職員間でミーティングを行い、みんなで判断をしました。ボランティアセンターで行えない活動はどこにつなぐかとか、社協以

外の機関でどういうところがあるか、っていうのも情報収集を行いました。また、多くのボランティアの方にご協力いただき助かったのですが、予想以上の人数の方に来ていただいた日があったので、活動場所とボランティアさんを調整するのが大変だったということもあります。その辺は徐々に、ボランティアさんは事前登録制にすることができたので、スムーズに行えたかな、と思います。

被災者に寄り添う

その後は水害の現状の把握とか、活動を依頼したいけど自らボランティアセンターに依頼ができない方もいらっしゃると思って、職員で地域に訪問も行きました。訪問すると、まだまだお手伝いが必要な方や、被災されたことで精神的につらい思いをされている方がいらっしゃいました。被災された方で見守りが必要な方は、ボランティアセンターの活動が終わっても、寄り添い訪問という名前で令和３年の３月まで訪問を続けました。

ボランティアセンターの運営は、大子社協の職員だけでは運営できなかったと思っていて、役場や消防、商工会、職員の家族等の町内の方のご協力もあったり、他の市町村社協の方が応援に来ていただいたり、あとは支援Ｐと言われる方や、プロボノという災害支援のプロの方の協力もあって運営ができたと思っています。ありがとうございました。

土嚢袋に書かれた応援のメッセージ

心の備えをしておく

大子町役場　小野瀬英一さん

消防署には次々と電話が

当日は消防にいまして、本部で２日間、１２、１３日に詰めたような形になります。台風が来る、ということで心構えをしていたのですけれども、消防団、消防署、一体になって活動しないといけないということで、消防団指揮本部を立ち上げて待機をさせ、すぐに活動ができる状態にする。消防署は、なるべく人命にかかわるような大きい災害に対応させなくてはいけないので、水が出ちゃった、土嚢が欲しい、っていう状態のところは、消防団に任せようということで、体制を整えました。最初のうちはやはり消防署に電話が入って、土嚢がほしいとか、水があふれちゃったよということで、消防団をそこに向かわせる作業を行っていたんですが、そのうち、８時９時になってくると消防署の方がいっぱいいっぱい、そっちでもこっちでもというような状態で、それも出てはいったけれども、道路が冠水して、この先進めないとか、たどり着けないとか、というような状況も多々あったわけですね。水があふれちゃって先に進めない、どうしようもない。じゃあこっちに回れ、あっちに回れ、というようなことで時間ばかりかかるような状況もあったのかな、と考えています。

避難することも大変な状況

その中で、私に１本の電話が入ったんです。女房からで、私の家は川の近くではあるんですが、かなり低いところを流れている川なので水害はあまり気にしていなかったんですけど、当日、８時９時くらいになってきたときに、かなり上がったみたいなんですね。結果的に水が浸かることはなかったんですけど、女房が、逃げた方がいいのかな、っていう話をしまして。私は仕事の方がバタバタしてる状態だったので、危なかったら逃げな、避難所の方は開いているんでそこに逃げればいいよ、っていう話をして、ちょっと突き放したんですけど。うちは年寄りがいたんで、年寄りはやっぱり動きたくないですね。水が浸かって、逃げなくちゃしょうがない時には動くんでしょうけど、まだそういう状態でもない。しかも外は雨がザーザー、風がビュービュー吹いている、というような状態で、これもまた大変だったんだよ、って後で聞きました。

物の備えと心の備え

やはり備える。何かに備える。自分で危ないことを危ないと感じられる知識を身に着けるっていうことが大事なのかなって。身につけたら何をしようか、どうしようか、っていう備えをしておく。心の備え。水を用意するとか食料を用意するとか、物の備えも大事ですけれども、まず災害に対して心の備えをしておく。こういう時にはこういう風にしよう、というようなこと。それが一番大事なのかな、と思っています。

見る間に避難できないほどの水

久野瀬在住　小林孝尚さん

あっという間に水が

あそこ見てもらえるとわかりますけど赤い線あるでしょ。そこまで水が来たんです。うちの中も床上１．５ｍ。明るいうちでしたけどね、徐々に水が入ってきたんですよ。大したことないと思って家にいたんですけど、そのうちに段々増えてきて、結局は外に避難する余裕がなくなったんです。それで、しょうがないんで自宅の押入れの上に天袋っていう空間があるよね。そこに一晩避難して。水が引くまで４時間ぐらいかかったかな。次の日の朝までその天袋にいましたね。今まで水が庭まで入ったのが４回ぐらいありましたが、ここまでのは初めて。向こうの竹やぶまでこの辺一帯が水没したんだからちょっと想像つかないでしょ。もう水が出始めると早い。家の周辺にあるものが全て流されて、川の方へ全部行っちゃいます。早かった。高いところへ登るしかないです。過去の経験でせいぜい床下ぐらいで済むんだろうって。だけど見る間に、早いですね水の出るのが。

水位を示す赤い線

久野瀬橋（斜めの柱がゴミ受け）　※

大きな損害

家の中にある冷蔵庫とか重い家財道具もすべて倒れちゃって水に浮いちゃって。だから全部使えなくなって捨てましたよね。車もハンドルの上まで入っちゃったんで駄目。泥の撤去には３日、４日かかりましたね。３００万円前後はかかりました。車が３台駄目になりました。あとはこの床板全部剥がして、床下に泥がたまっちゃうんですよね。それ全部

取っちゃって床板張り直ししますね。あとこの建具が全部駄目で。それを新しくして。あとは部屋の中にあった家財道具は全て処分しました。

ボランティアに助けられた

ボランティアの方が手伝いに来たんですよね。それはだいぶ助かりました。若い人ですね。若いと力ありますよね。次の日ぐらいから来ましたね。一応町の方で募集したっていうか管理してて、あちこち水があったところに割り振って派遣するような感じかな。あとは近所の人も結構来ましたけどね。あとは差し入れとか結構ありまして、食べ物ね。ボランティアがうちに来たのは１週間ぐらいかな。１日いるわけじゃなくて午前とか午後とか分担して。大体１日あたり７、８人は来ましたね。あとはトラックはよそに捨てるものを積んで大子で集積場あるんですよ。被災したゴミを集めるところね。そこへ運んだりそういう仕事をしてくれましたね。だからいろんなやることを終えて落ち着くのにやっぱり１年くらいはかかります。一番大変なのこの床下の泥ね。それ取らないとやっぱり環境に悪いんでそれを全部取って、あと町の方で配布した石灰ってあるでしょ。あれを床下に全部まいた。消毒の意味もあるのかな。

川が増水すると水害を思い出す

そこに橋あるでしょ。あれがしょっちゅう水没します、最近。今年になって３回ぐらい水没しましたよ。これは橋にゴミが直接当たんないように。ゴミをここで止めるわけね。結構丈夫なんですよ。水が出ても上を流れちゃうでしょ。この橋はテレビのドラマの撮影でしょっちゅう出ますよ。映画で「桜田門外の変」っていう映画があったんですよ。あれはここで撮影しました。

あとシガってわかる？冬になると凍った氷が地面に流れる現象。あれはここが一番流れるところ。ちょうど条件がいいんですよね。日本でも２か所ぐらいしかそれが見られない。そのうちの１つだから。

今回の台風の後、ようやくいろんな対策を考えて。今度は堤防ができるんですよ。それで、水が入らないようにするんで、橋の上１．７ｍの擁壁を工事するんです。２年後には完成。予定がね。もう安心だと思うんですけどね、でもわかんないね。

３年経って、水害のことはほとんどは忘れてますね。ただ雨が降って川が結構増水するんです最近は。そうするとちょっと考えます、やっぱりね。

あの瞬間すべてなくなった

大子在住　松浦幹夫さん

工場の設備が浸水

うちの工場、１ｍプラスぐらいの水が入っちゃいましてね。影響をずっと引っ張っています。

機械類は特にモーター、電動モーター。ちゃぽんと入ったやつは全部駄目です。何が駄目かって防塵タイプのベアリングの中にまで砂が入るんですね。みんなバラして掃除して、ベアリングだけは新品に変えてということをやりましたね。それから工場の機械は、最近はコンピュータで動くでしょう。あれが全て駄目ですね。これは激甚災害指定があり、補助金が出たんで何とか助かったんですけど、あれがなければ、もうその瞬間に廃業ですね。何十年もかけて少しずつ少しずつ作ってきた小さな企業ですから。

２か月、特に最初の１か月はもう朝から晩まで家を出たら工場で泥掃き。それで疲れて夜帰ってくるの繰り返しですね。だから、役場の周辺があんなに水が入ったなんていうのはわからなかったです。後で広報だいごの写真を見て、他の町内がひどい状況だっていうのが初めてわかりましたね。

（片付けは）人海戦術。親戚縁者がみんな助けに来てくれたんです。ただ隅々までまんべんなく泥って入ってくるでしょ。あれは本当に大変な作業ですね。

後から被害に気付くことも

補助金が出るって言っても最初に出ないよね。全部立替払いをしてから出る。それからこういうものは駄目、ああいうものは駄目といろいろ制約がある。

最初にあれっと思ったのは、軽トラックが２台水没しました。軽トラは看板がついてるかどうか。今時看板なんか付けて走らないですよ。ない方がいいんですよね。ところがついてないものは認めないとかね。

日々使ってるものは（故障に）すぐ気がつくんですが、大きい電子はかりがあるんですよ。（しばらくしてから）スイッチ入れたらば一つも動かないんですね、水がついてるから。その頃気がついたんです。あれ駄目だっていうね。

だから全部１回の申告で済ませろっていうのは。初めての被害の時はやってみるまでわ

からないからね。結局ここまでは壊れてないだろうと思った機械も全部駄目でしたね。それは、援助金の対象に一切ならなかった。それは相当の損害が出ましたね。

さらに後々あったのは、使わないで予備に置いておく機械があるじゃないですか。それが全て水に浸かっちゃうんですよね。それで作業が始まって、目の前のコンプレッサーは水に浸かってるから駄目なんです。もちろんそれは駄目ってわかってるんですよ。何台も予備があんだっけ持ってこいやと言ったら、全部動かない。一切なくなっちゃう、あの瞬間にね。一切なくなっちゃったっていうのはね、想像を絶する不安です。

結局駄目なものは投げるようでしょ。そういうようなことが一番でしたね。

今後のために必要なこと

やっぱりデータでしょうね、警報の。大子の場合には、大子で５００mm降っても大したことないんですよ。それよりも上流で降られた４００mmの方がきくね。上流でたしか４５０ぐらい降ったんですよね。それが夜中になって出てきたんですよ。夜中になってですから間に合わないよね。

離れた場所の降水データなんかも、少なくとも役場の防災課は知ってて。例えば大子は２００だけど、隣町とそのもっと先が、どうも４００降ってるから危ないぞとかね。そういう予報を立てるべきだと思いましたね。そうすれば逃げるっていうか、いろんな防ぐ手立てもあるじゃないですか。例えば仕掛品とか材料とか車だったらば、高いところに持っていくとか。誰だって言われればやるよね。

情報をね、川の上の方はどうなんだとか。離れた地域がここに影響するんであれば、そういうのまで入れた防災。必要だと思いますよね。

今後の大子町には

もう少し人が増えるような策をしてもらいたいですよね。今、コロナで日本でもリモートワークが一般的になりましたよね。だからこれだけ自然があって、残念ながら空き家の多くなってきた地区ですから、そういうところをもっと活用して。そうは言っても道路が良くならないと来てくれませんよね。鉄道も含めて、交通手段だけはばっちり作ってもらって、それで田舎はどうっていうようなことやって人を集めるのが一番なのかなと。
もうちょっと人が欲しいですね。３万人ぐらい欲しいですね。今の倍。

様々な支えでキャンプ場を再開へ

頃藤在住　竹内恒子さん

夢を見ているようだった

台風が来た当日朝早く、５時頃かな、主人と（経営している）キャンプ場の様子を見に行ったときには、全然風景が変わって、ほとんどのものがなくなっちゃってる状態で。なんか夢でも見てるような状態でしたね。バンガローも３５棟ぐらい流されちゃったし、管理事務所とか、トイレ、炊事場、シャワー室、全部がもう姿が消えてなくなっちゃって。

キャンプ場のどこに何があったかまるっきりわかんない状態になってましたね。桜の木、アカシアの木、土手もあって趣があるキャンプ場だったんですが、それが一掃されて河原みたいになっちゃって。電柱も全部なぎ倒されて折れて、凄い状況でしたね。

過去にも受けた水害

昭和６１年と平成２３年にも水害の被害があったので、多少覚悟というか、やっぱ浸水したり被害は出るのかなっていうのはあったんですけど、なくなっちゃう想像はしてなかったですね。平成２３年のとき、４０棟近かったバンガローがほとんど傾いたり流されて、大体１メートル管理事務所が浸水して大変だったんです。９月２１日の台風１５号ですね。震災があった年。昭和６１年の時もバンガロー５棟ぐらい流されて、いろんなものが傾いたり、えぐられたり、結構被災したんですね。だから大きな水害は令和元年で３回目だったんです。

被災後のキャンプ場の様子

危険と隣り合わせの自然

（キャンプ場は）５０何年続けてきたんですよね。風光明媚っていうか山と川と電車と。だから普段はすごい恩恵をいただいてて、その自然もやっぱりリスクが背中合わせだから、天気予報はいつも確認してる。雨が降る確率とか天気の急変とか、熱帯低気圧が出たっていうと、台風に変わるか常にチェックして。だから台風が来るっていうときには、お客様にキャンセルしてくださいって逆にお願いして。

災害後に感じた繋がり

片付けは大変でした。駅前のお店も３か月ぐらいは休業して毎日復旧作業に家族で行ってて。キャンプのお客様も心配して駆けつけてくれたり、泥出しとか畳運ぶの手伝ってくださったんですよね。妹達家族や親戚、友人、周りの人たちに本当に助けていただきました。

お客様たちが（片付けの手伝いに）代わる代わる来てくださった。電柱が３本倒れちゃって、電気使えなくて大変だったんです。そしたらキャンプのお客さんが発電機持ってきて、これ使ってくださいって置いてってくださった。

水害になった直後からいろんな所から心配してすぐに駆けつけてくれた方々、物資を送ってくれた方、本当に自分のことのように心配してくれる方がたくさんいらっしゃって。自分はもう当時はキャンプ場が再開できるなんて思えなかったですからね。また再開を待ってますとかコメントくれたり電話もくれたり、実際に物資を送ってくれたり。ずいぶん支えていただいたのはすごくありますよね。

年明けてからは常総市のボランティアの方も何回もいろんな形で手伝いで来てくださって。倒れそうになってた木を切ってくれたりとか、バンガローとして使用していた貨物列車も横倒しになっていたのを片付けてくれたりとか。すごくありがたかったですね。

いろいろな形で支えられて再開できた

本当に皆さんに支えられてるって感じですよね。いろんな方にいろんな形でご支援いただいて。今思うとよくここまで再開できたなって、しみじみ思いますよね。あの当時は考えられなかった。何もかも捨ててどこかに行けたらどんなに楽かなって、いつ終わるのかなっていうのがありましたもんね。

管理事務所の中の駄菓子コーナーに「小さな駄菓子屋さん」って看板かかってたんです。これだけ戻ってきたんです。奇跡なの。全部流されちゃったのに、辰野口公園のところにこの看板が流れ着いてたらしくて、それをある人が何かに載せたのかな、これ落ちてたって。そしたらそれを見た常連の方が、その人に連絡して、自分がキャンプ場に届けてあげますって言って。

実際の惨状がわかんないですよね、一部一部しか写真に撮れない。写真はいろんなものが流されちゃった後なんですよ。

川からあふれた水がまわってきて

矢田在住　渡邉和重さん

当時は私は那珂市に勤務していて、那珂市の方に翌日行ったら、水害はありましたけど、川沿いのところ以外は平気な状態だったので、いかに大子町がひどかったのかっていうのはわかりました。

雨がやんでから水位が上がった

工場の壁が倒れているような写真があります。あの辺は標高が低くて、１９８０年代にも大雨が出て１回水没しているんです。なので地元のものはあそこと２つの川の合流地点はだめだと…。ただ昔からの言い伝えでそこ以外は大丈夫だろうとたかをくくってました。そうしましたところ、我が家も床下浸水で、車も４台のうち３台は車の床上浸水でした。ちょうど夜中の２時ごろです。雨がやんで、もう増水しないだろうと思っていました。そうしたら、なんかおかしいなって思って外を見たらもう３０分くらいで４０センチくらい水位がぐーっと上がってきまして「こりゃあまずいだろ」っていうことで…。そして翌日明るくなってきたらとんでもない状況になっていました。

川からあふれた水が戻る流れで被害に

ちょうど川が決壊したところは、用水路みたいなところから逆流してのルートできたんだと思います。石が倒れてたところ、塀が倒れてたところはその逆流して流入した水がちょうど川への出口になるところだと考えます。「ぐるーっ」と土地を回って、水も高いところから低いところ行くのでちょうど流れが川に戻ろうとしたような…。だからただ決壊して押し寄せるじゃなくて、その水が逃げようとしての災害だったのかと思ってます。

被災後は疲労がひどかった

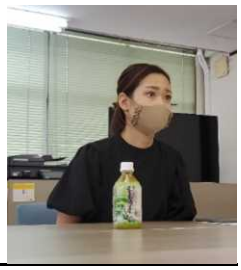
ごみを投げ捨てる写真があったと思うんですけども、我が家も何回かごみ運びしたんですが、もう地域住民の方々、ほんと疲れてて、ごみを捨てる気力もない感じでした。食料も手に入らなく。コメ農家さんが多いので備蓄はあるだろうと思うんですけど、我が家なんかもコメをしまっておく小屋自体がやられてしまいました。そんなこともあって、伝え

ていかなければならない災害だと感じました。

水の勢いで倒れた塀　※

被災ごみの集積場　※

町内でも被害に大きな差



矢田在住　藤田美希さん

危険を感じて

当時の住まいは２階建てでしたが、川の近くに住んでいたため、高台にある私の実家に家族で避難をしました。そのときは自分たちが助かりたい一心で持てる貴重品を片手に避難をしました。

避難勧告をアプリで確認していましたが、早めに避難をする近所の住民はおらず、警戒レベル５の時も避難している人はほとんどいませんでした。なので在宅避難をしていましたが、２階から外を見たときに道路に水があふれて非常に危険な状況になっていたため、そこでようやく避難をしようと決めました。

当時の自宅近くには押川と久慈川が交わってるところがありました。後日、近所の方から、台風で被害が大きくなった時間帯に旧役場の交差点で水が渦を巻いてたという話を聞きました。また人が溺れるほどの水が押し寄せる中、自宅で必死に耐えていた方もいたという話を聞き、改めて早めの避難が大切だと実感しました。

大きな被害

この辺は川に囲まれた土地柄、今回の被害が大きくなったと思います。今回の台風１９号は、１m以上浸水した家が多かったと聞いています。ただ、過去にもこの辺で床下浸水の被害があったそうです。

被災後の片づけに関しては泥がたくさんあり、すごく大変でした。特に畳は、水を吸うと女性１人では持ちあげることができないくらい重くなります。 我が家は、運べるものは軽トラで、旧役場近くの回収場所まで往復して運びました。

大子の中でも被災の度合いはバラバラ

大子町の全体が被災したわけではなくて、川沿いの地域だけに集中してしました。旧役場周辺の被災した場所から車で５分ぐらいのところにあるバイパス通りでは通常通り営業している店舗もあり、本当に場所によって被害の大きさが違い、複雑な気持ちでした。

水害に向けた対策

避難の時は通帳やお財布やスマホなど最低限の貴重品は必ず持って逃げましょう。貴重品がないと生活に困ってしまうので。あとは必ず水・米・カセットコンロなどはもしものために準備をお勧めします。

一番言いたいのは「自分は大丈夫」と思わないでください。自分の身を守れるのは自分だけです。日ごろから貴重品などをすぐ持ち出せるように、家族で保管する場所の共有をすることが大事だと思います。早めに行動することを心がけ、自分や自分の大切な人の命を守ってください。

防災のためのまちづくりへ

袋田在住　藤田稔さん

昔から続く水害

昔から台風や大雨が続くとお店は水害にあってきた。お店の裏側に滝川がありどうしようもない。袋田の滝があるから多くの観光客が来る。私がちっちやい頃は堤防がなく、お店の後ろが竹藪であった。その後石垣ができたのだが、近年の気象状況の変化で水量が多くなり、お店のテーブルや椅子、冷蔵庫などみんなきれいに川に流されたこともあった。さらに石垣の上に堤防が整備されて背丈ぐらいの高さになったため、今は川の水位がそこをぎりぎり超えるぐらいまでになっている状況である。川の水位が上がると、山からの沢水がのみこめなくて逆流してくる。

大丈夫だろうと思っていた

その当時も、最初は「大文夫だろう」と思っていた。普通は川の水位の状況を見ていると大体わかるのだが、当時は急に水位が上がり、お店の品物や座敷の畳を上げたりしている暇はなかった。「避難しなれば」と思い、犬を２階に避難させて、お店の電源を切り、家内を近くの子供の家に避難させた。私は、消防団長をしていて、避難レベル３になると出動しなければならない立場のため、市街地へ行く途中の久野瀬地区の道路が冠水してしまうことを知っていたので、生瀬地区を通り大子中学校付近に出られる道路を通り、遠回りをしながら消防本部へ行って、そのまま詰めていた。

今回の水害は過去の水害のレベルをはるかに超えていて、久慈川上流の自治体との情報共有もさらに必要と感じた。

大変だった後片付け

私が自宅に戻るとお店にも泥がたくさん溜まっていて、それを掃き出すのは大変だった。固まってしまうともっと大変なので、「水道が出るうちにやってしまおう」と思って、電気もつかない夜中から始めたが、結局、夜が明けて昼頃までかかっても終わらなかった。町内の民家や商店などでは、私のお店の被害以上のところも多くあった。とにかく後片付けが大変で、多くの畳や電化製品などが山のように積まれていたので、３日以上かかったと

ころもあっただろう。多くのボランテイアの方が全国から来てくれて本当に助かった,

防災を考えた役所づくり

役場も被害にあい、当初計画していた新庁舎建設が変更になった。現在、新庁合は高台に新設されていて、移転後の役場跡地には、今後、防災道の駅の機能を果たすための様々な防災施設の建設が進められる予定である。

『水害』は『水』、『火災』は『火』、どちらも人が生活するときに必要なものだ。水害にあってから、台風や大雨時などに対する気持ちが以前より敏感になったように思う。役場の近くにあった福祉施設も水害にあった。当時、入所者を避難させるために役場職員などが助けに入ったと聞いている。

人は良いことも悪いことも忘れがちである。災害はいつどこでどのように発生するか想定は出来ない。経験した教訓をしつかりと生かして、次世代にも引き継いでいかなければならない。

地区のために何をすべきか

Ｈさん

避難の重要性

水害のちょうど１か月ぐらい前に県の防災危機管理センターの講習を聞きに行っていたんです。だから避難命令、避難指示が出てすぐ家内の車と私の車で、高台にある南田気の集会所に避難したんです。

私、岐阜県の生まれなんです。木曽川のすぐ近くに住んでて。記憶に焼き付いているのは５歳の時の台風で、積んであった木が流れて、木曽川沿いに立ってた２階建ての家にどんどんぶつかり出した。で、家がもろとも流れるのを目の前に見たんですね。そういう記憶があったもんだから。２時半頃からカッパ着て長靴で入って、全世帯を夕方まで回った。避難をしてほしいと。ところが避難しない人がいるんですよ。いやこんなところ水なんか来ないよと。で、来ない人のところを今度もう一度歩き出し。そしたら３時過ぎ頃にはもう水がついて行けなくなっちゃったんです。電話も繋がらない。それでレスキューを頼んでもらって、朝、たぶん３時頃ボートでここまで運んでもらって、集会所に来て。だから１人も人命はなくさないで済んだ。やはり何が大切かっていうとね、人命なんですよ。

一晩明けて目にした光景とやるべきこと

朝４時１５分頃だったかな。雨が上がって、懐中電灯を持って見回りいったんです。朝一番僕がやらなきゃいけないことは何かっていうのを思ったわけ。 主要道路全部ふさがっちゃってる。橋も渡れない。ここは陸の孤島になったんです。漏電起きたら消防自動車入ってくれないでしょ。まず一番朝起きてやらなきゃいけなかったのが、道路１か所、通行できるようにする。私知り合いにパワーショベル持ってる人が一人いたんですね。その人にお願いして１か所開けてもらったんです。それをまずやった。

その後自分の家に家内と戻った。水はおかげさまで早く引いた。床上我が家は４０から５０ｃｍ近く。家内がドア開けた途端に言った言葉は「ヘドロ臭い、もう臭くてこの家には住みたくない」。僕もそう思ったんですけど。ということは４１世帯、全てそういう思いだろうな、ということで、うちはまずほっといて全世帯に回ったんです。みんな無事でおられたんでね。 本当にほっとしたんですけれども、僕の呼びかけに反応しなくて自宅にい

て本当震えてたよ、いい経験したよ、なんていう人もたくさんいてね。いやいや本当区長の言う通りにすればよかった。そういう言葉もいただいたんです。なにせ震えていたっていうのは、木が流れてぶつかる音がするんですね。そういう何て言うかな、不安感と言うんですかね、恐怖感、そういうのを家にいて味わったわけです皆さん。だから次回からは必ず早めに避難するということを皆さんから幾度言っていただいたんでね。今度こういうことがあったら困りますけどね、あった場合にはすぐ避難する。みんなに約束してもらったんです。

自宅に戻るために

それからやはり皆さんのために何ができるか。まず物資ですね。皆さんから必要な物資を聞いて、役場にお願いして毛布だとか、そういうものをいただいて集会所にあげる。集会所とか避難所って寝れないんですよ。

自宅に戻るためにどういう対応するか。ボランティアにどんどん入ってきていただきましたから、まず１件ずつ何をしてもらいたいか、いつごろボランティアに入ってもらうか聞いて、段取り作って。社会福祉協議会に先頭に立ってやっていただいたんですけどね。本人たちは自分たちの片づけで（要望を出すのが）できないから。

（片付けで）一番大変だったのは畳です。１枚の畳が水を含んでて４人で持たないと持ち上がらない。その置き場をまず確保、空き地の持ち主にお願いして貸してもらう。今度は役場環境センターと打ち合わせして、いつまでに引き取って（とお願いした）。

その家を今後使うってのはどういうメンテナンスをしたらいいかっていうことなんです。でね、床下にヘドロが入っちゃってますでしょ。床下の、柱も水につかってますから。そのまんま置いておきますとシロアリの温床になっちゃう。それからカビ。だから乾燥させて消毒するっていうのが大事。それを常総市で水害を経験された方に来ていただいて、いろいろお願いして我が家に全員集まってもらって（乾燥消毒の方法を）デモンストレーション、うちの床を剥がして（実際に）やり方を皆さんにお伝えして、それである程度自分たちだけできるっていうように。噴霧器を買ってきて、それでやっていただいた。本当このボランティアの方たちにどれだけお世話になったか。感謝ですよね。

皆さんとその後いろいろお話をしたんですけれども。やっぱりこの世の中ないことが起きるんですよ。災害時はまずいち早く避難するこれが大事ですね。とにかく避難です。だから無駄だと思わないことね。人命ってことを考えたときに、無駄ではないですから。

ワークショップ

台風第１９号の被災体験を語りあうオンラインワークショップ

被災体験のある住民と茨城大学の学生が主に参加。台風第１９号での被災の写真を埋め込んだGoogleマイマップを活用したオンラインワークショップ。学生が、そのなかの気になった写真を選び、それについての感想や質問を投げかけ、写真を撮影した当事者である住民に応答してもらい、当時の体験を感じ取る試みを行いました。この語りあいから、これからのまちづくりに結びつくつながりやアイディアができていくことを目指しました。コロナ禍ゆえのオンラインでありましたが、むしろその利点を最大限活かすことができました。

〇日　　時　令和４年２月２０日（日）　１３：３０～１６：００

〇場　　所　オンライン

台風第１９号の被災体験を語りあうハイブリッドワークショップ

被災体験のある住民の方を中心に、病院関係者、常陸大子駅関係者、介護老人保健施設職員、NPO法人スタッフ、大子町役場職員などが参加。台風第１９号での被災をめぐり、写真や動画であの日あの時をふりかえり、その体験を語りあい共有していくために、対面を中心としつつも、オンラインでも参加可能なワークショップを試みました。全体のコーディネーターも、３つのグループに分かれてのコーディネーターも、主に学生が務めました。

〇日　　時　令和４年６月１日（水）　１３：００～１６：００

〇場　　所　袋田地域防災センター＋オンライン

高校生中心のハイブリッドワークショップ

高校生中心のワークショップ。主に１年生の生徒たちが参加し、オンラインでＪＲ常陸大子駅関係者等が参加しました。台風第１９号の被災状況を高校生たちに知ってもらい、そこで感じたことをベースにしながら、これからの大子町の在り方について考える機会となりました。ファシリテーターは、伊藤ゼミ４年生の佐藤美理さんら学生が務めました。３月１０日（金）には、ワークショップの内容をふり返る機会をオンラインで実施し、高校生たちの感想を川柳で寄せてもらいました。

〇日　　時　令和５年２月２１日（火）　１３：２０～１５：１０

〇場　　所　大子清流高校＋オンライン

アンケート調査

令和２年８月に、茨城大学との連携により災害時の避難行動調査として、「令和元年台風第１９号大子町被災地域住民向け　アンケート調査」を実施しました。

〇対象世帯　４２８件

〇回 答 率　４７．７パーセント（２０４件）

【回答者の属性で割合が高かったもの】

・６０代以上　　４５パーセント

・大子、矢田地区　５４．８パーセント

・無職（農業）　　４６．２パーセント

・昭和６１年（過去の水害）以前からの居住者　６０パーセント

アンケートから見えてきたこと

・浸水確認後に屋外に避難された方の割合が、４０．７パーセント。自由記述からもギリギリになって避難した方が多い。

・避難行動の決断に有効な情報として、「直接の声がけ」「繰り返しの呼びかけ」を挙げる方が多かった。水戸市は、「河川水位の変化」を挙げる方が多く、リードタイムが短い上流地域の特徴が読みとれる。

・避難情報に対する要望として、「状況の変化をもっと詳細に知らせてほしかった」を挙げる方が多かった。

・避難をためらわせる要因として、「自分は安全と思っていた」「避難行動を起こす基準が定まっていない」を挙げる方が多かった。水戸市は、「まだ浸水していない」を挙げる方が多く、水害経験の有無で違いがあることが読みとれる。

・過去の被災経験が、「ここまでなら大丈夫だろう」と逆効果に場合がある。水害経験が多い水戸市では、その割合が高くなっている。

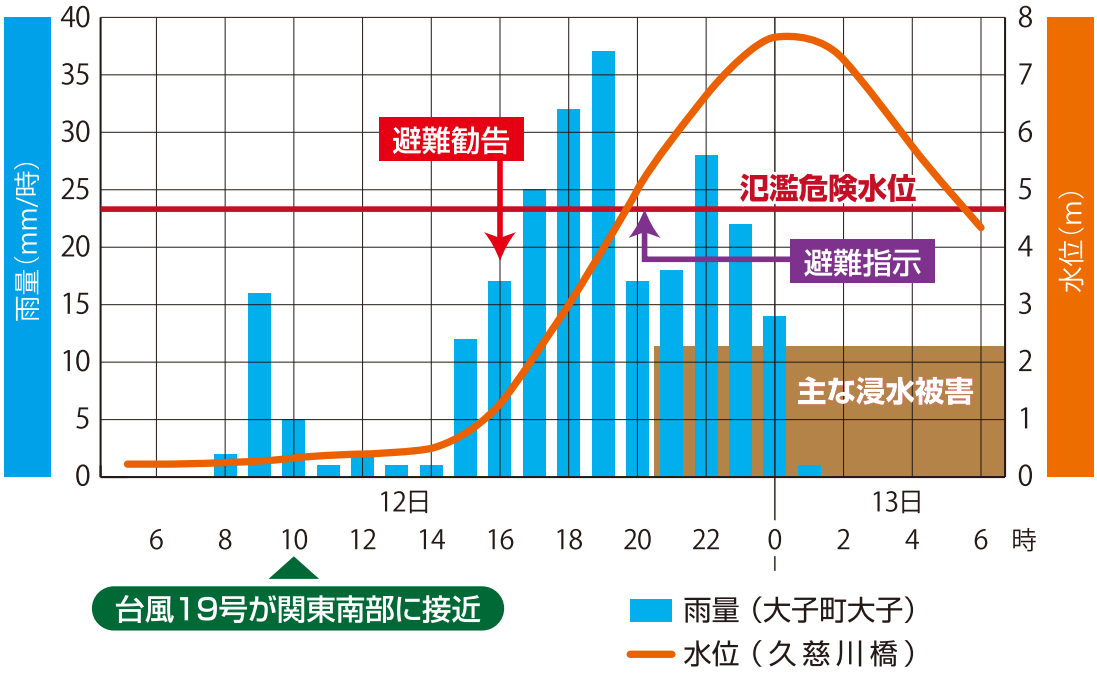
・日頃の対策として、「地域の防災訓練に参加したことがある」を挙げる方が多かった。水戸市は少ない。

・避難所での良好な生活環境のために必要なものとして、「個別スペース（仕切り）」「衛生的なトイレ」を挙げる方が多かった。アンケートの時期により「感染症対策」も多かった。
・ハザードマップを事前に確認していた方は、避難行動が早かった。一方で、浸水確認まで留まる方も多かった。
・避難しなかった理由として、「いざとなれば２階に避難できる」「床下浸水で済む」を挙げる方が多かった。設問にはないが、資産保全行動が影響していることが読み取れる。
・避難情報の取得率として、「河川や浸水確認（目視）」「緊急告知ＦＭラジオ」を挙げる方が多かった。一方、「エリアメール」「防災アプリ」などデジタル情報は、取得率が低かった。水戸市は、詳しい情報を小出しにすることにより、ホームページの取得率が上がっている。

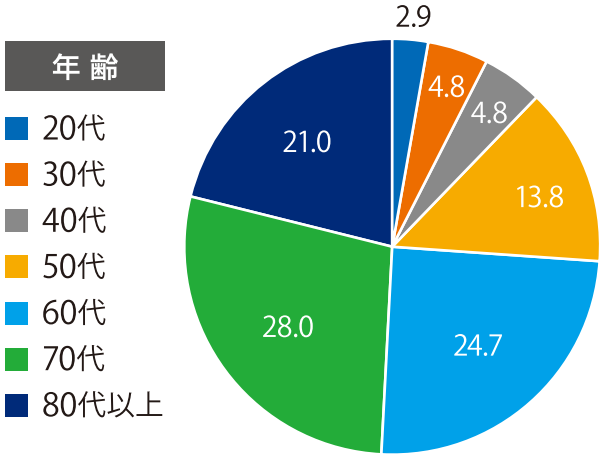
大子町アンケート

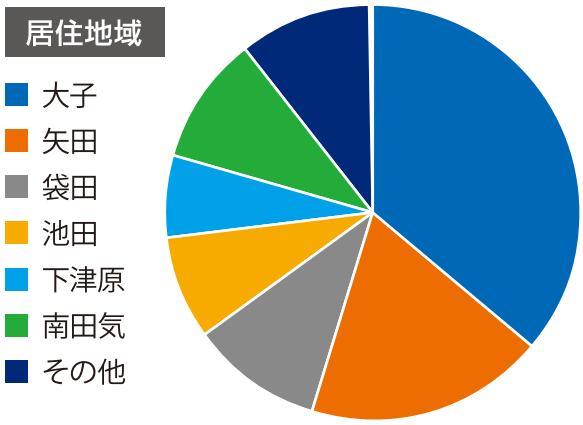
行政・情報に対する要望

当時の雨量・水位

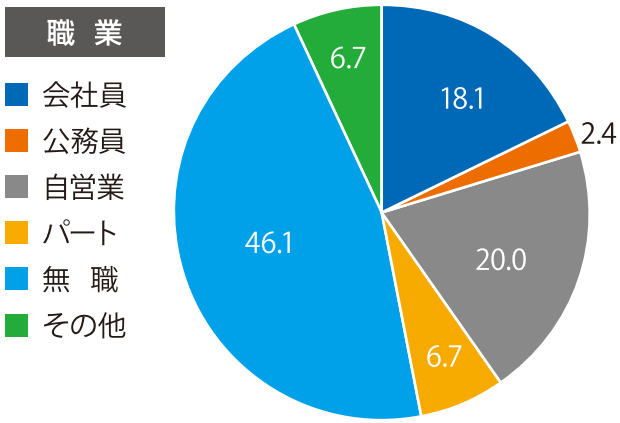


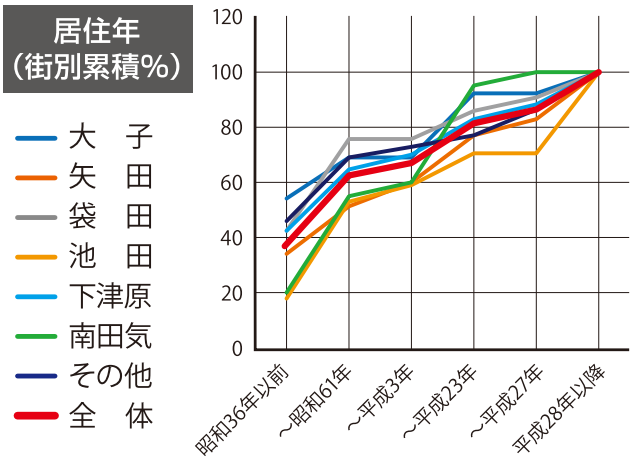
回答者の傾向





回答者の傾向

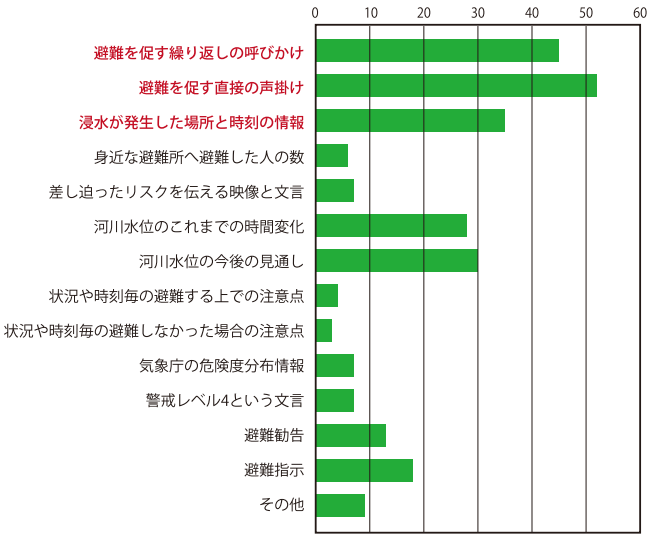




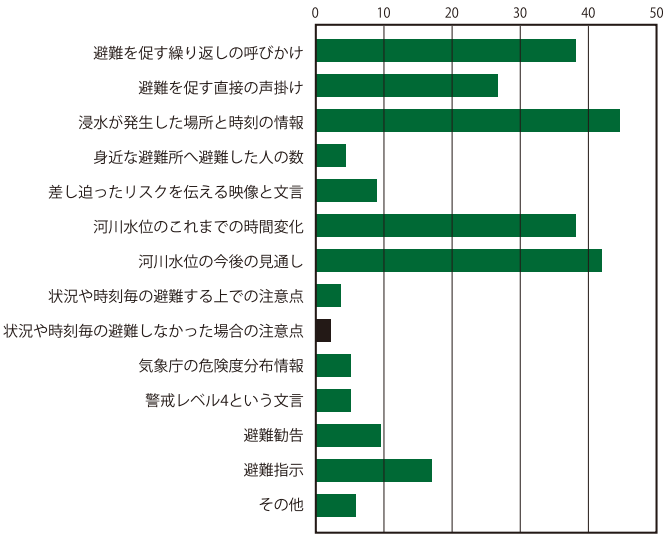
		大子町	水戸市
避難率(%)		64.3	67.6
屋外避難全体		57.7	63.0
2階避難		5.6	4.6
事前避難なし		34.7	32.4
屋外避難	～避難勧告	14.2	16.5
	避難勧告～避難指示	27.4	20.2
	避難指示～浸水確認前	17.7	21.1
	浸水確認後	40.7	34.9

行動決断に有効な情報

大子町 行動決断に有効な情報



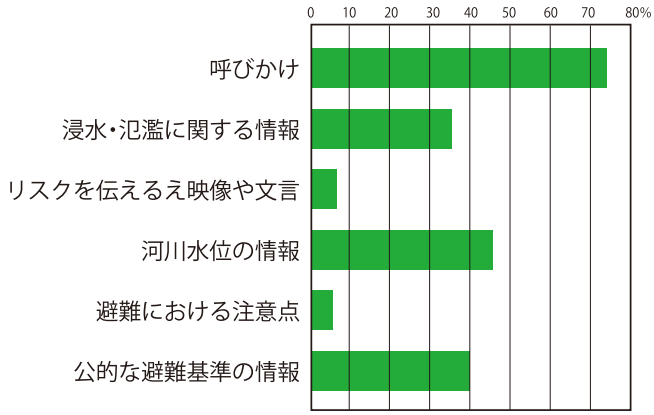
水戸市 行動決断に有効な情報



行動決断に有効な情報

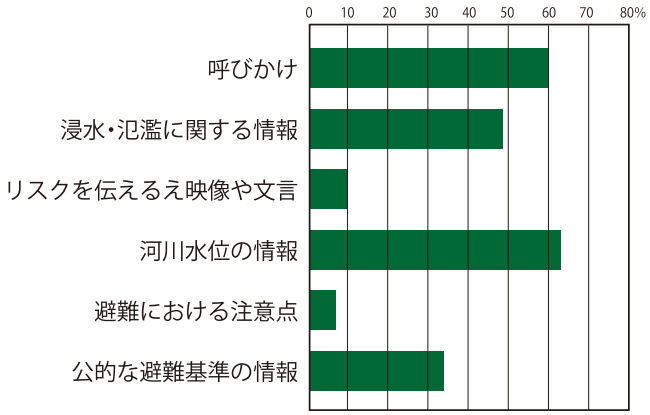
大子町

行動決断に有効な情報（カテゴリ別）



水戸市

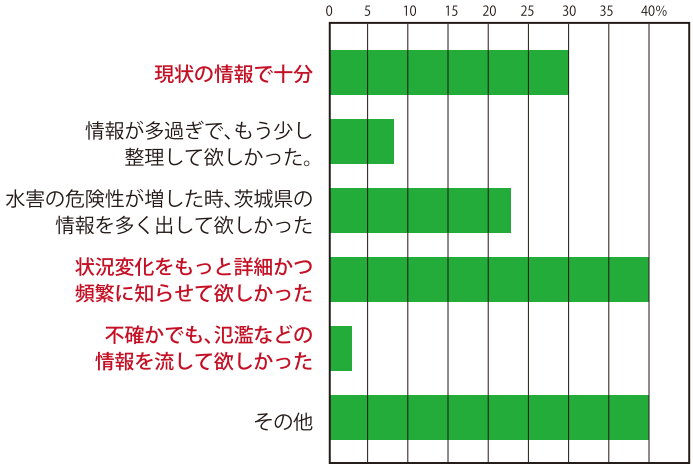
行動決断に有効な情報（カテゴリ別）



行動決断に有効な情報

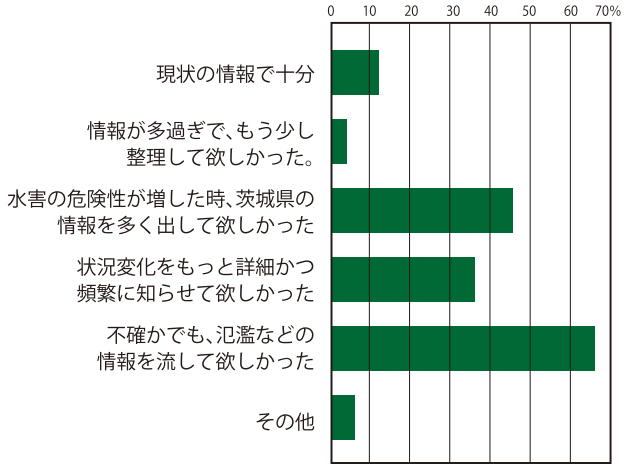
大子町

避難情報に関する要望



水戸市

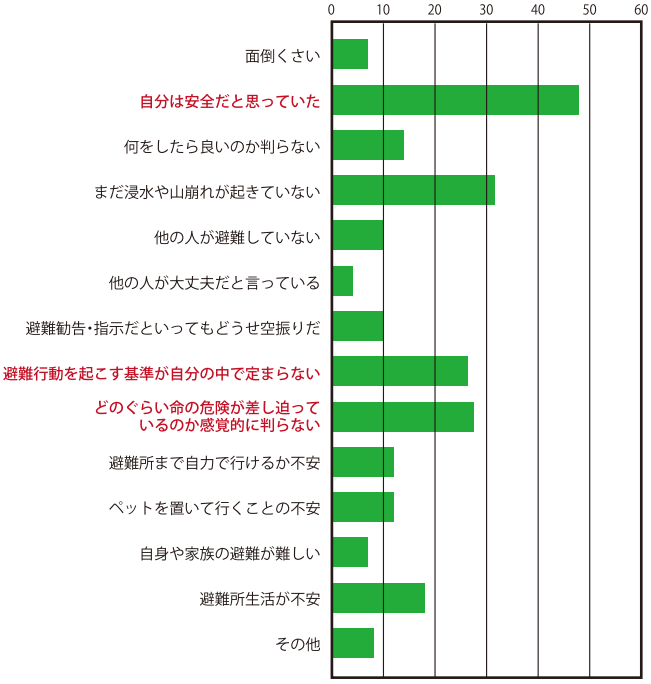
避難情報に関する要望



避難をためらわせる要因

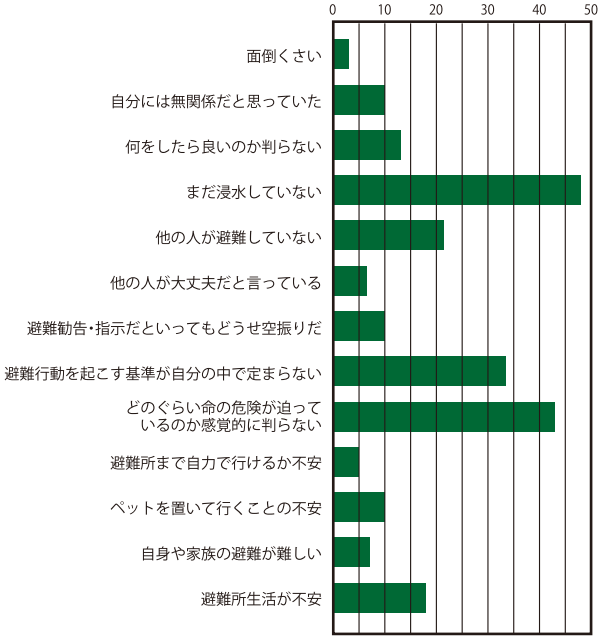
大子町

避難をためらわせる要因



水戸市

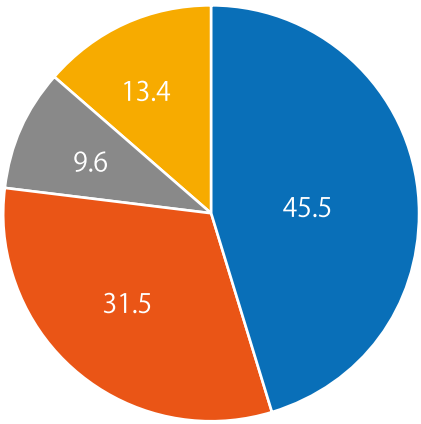
避難をためらわせる要因



過去の被災経験の影響

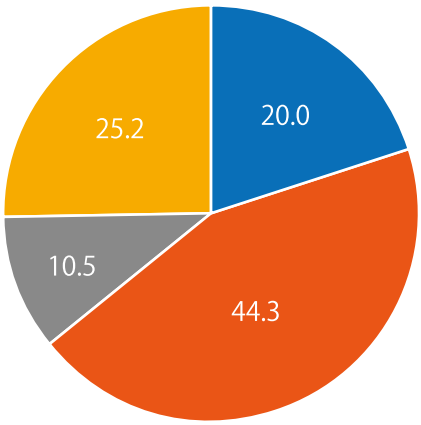
大子町

過去の被災経験の影響（%）



水戸市

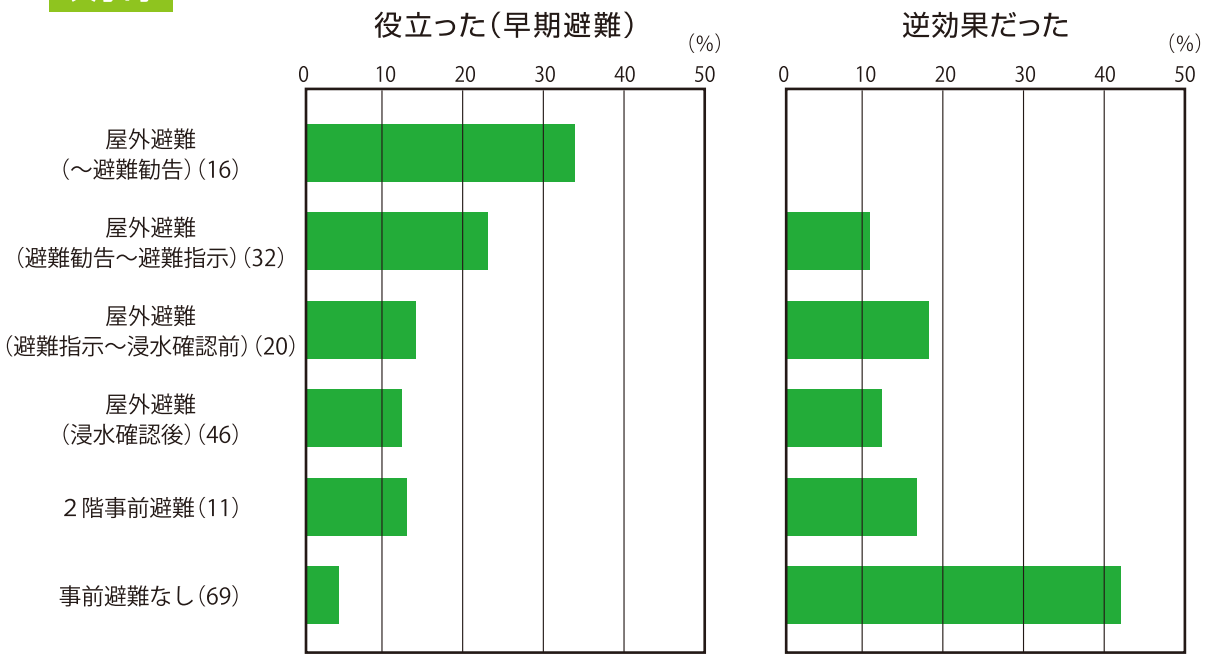
過去の被災経験の影響（%）



- 特に影響を受けていない
- 役立った（不必要な避難を避けられた）
- 役立った（早めの避難行動に結び付いた
- 逆効果だった（経験上被害は）

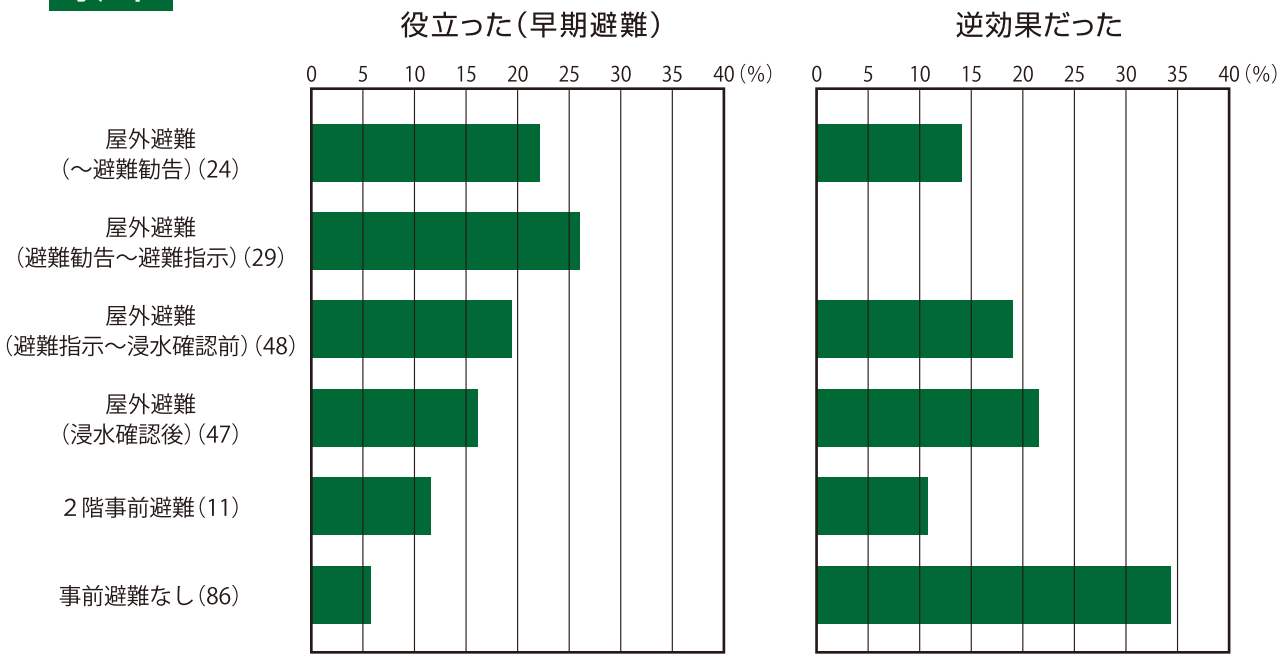
過去の被災経験と避難行動

大子町



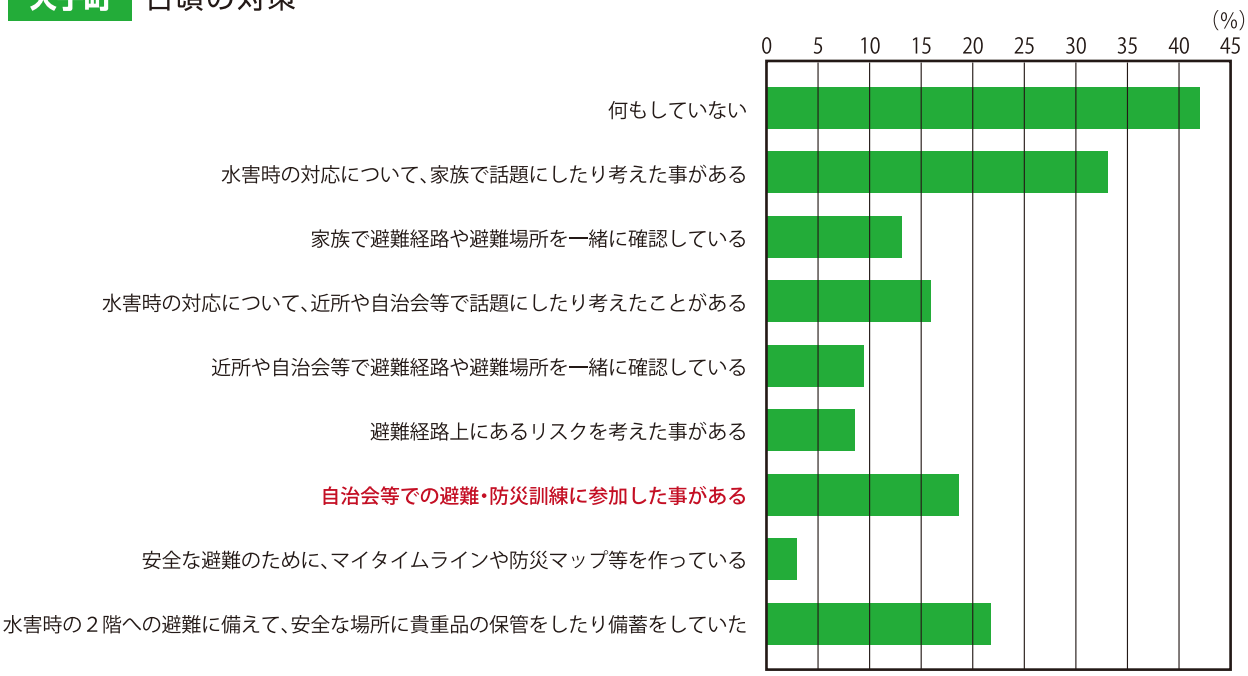
過去の被災経験と避難行動

水戸市



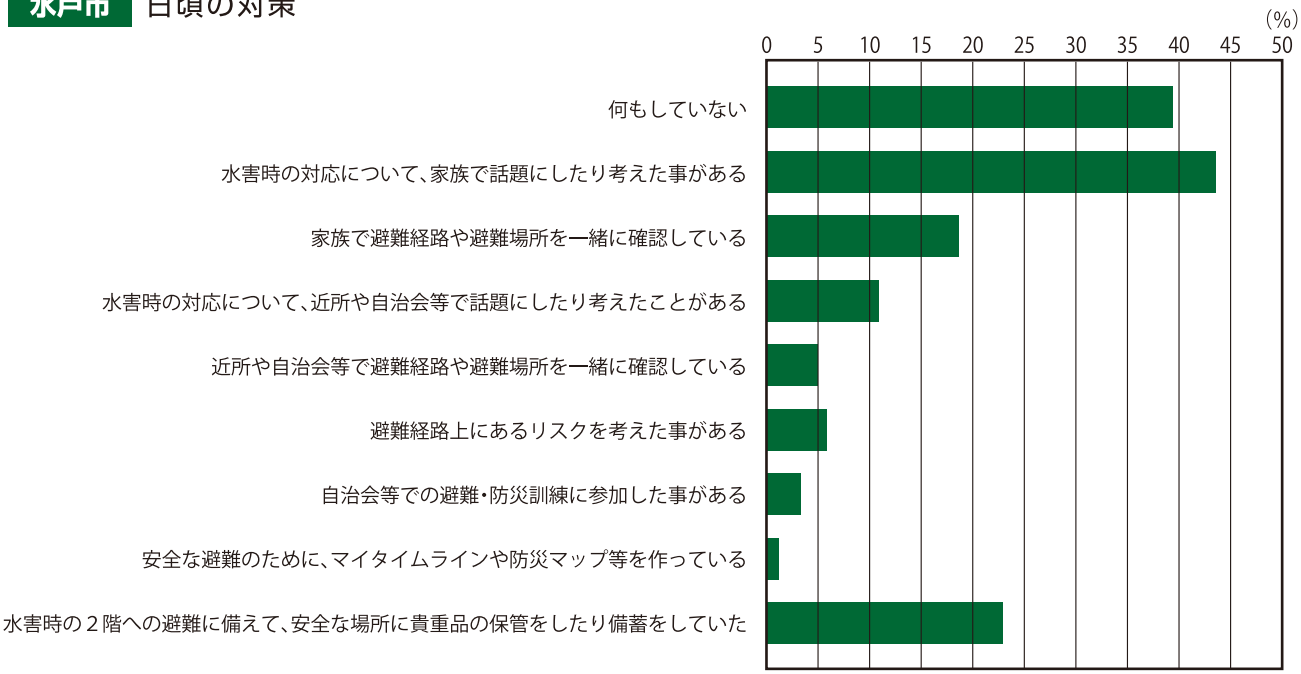
日頃の対策

大子町　日頃の対策



日頃の対策

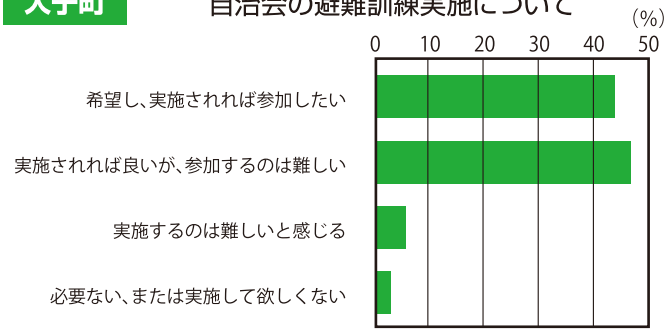
水戸市　日頃の対策



自治会・町内会の活動について

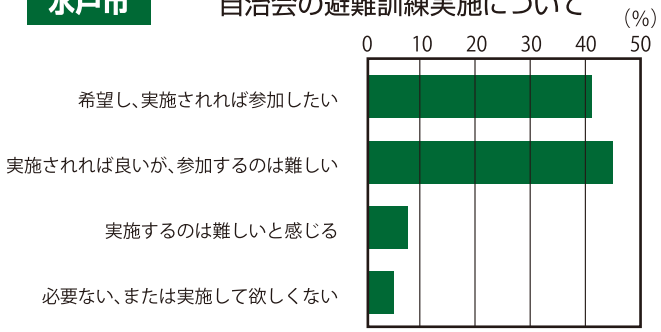
大子町

自治会の避難訓練実施について

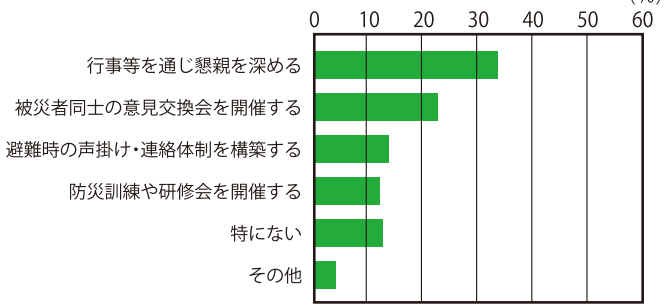


水戸市

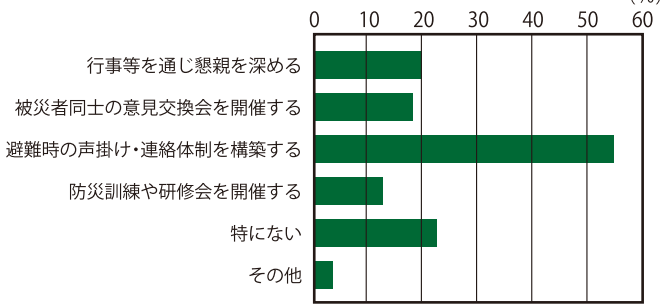
自治会の避難訓練実施について



自治会の活動に求めること

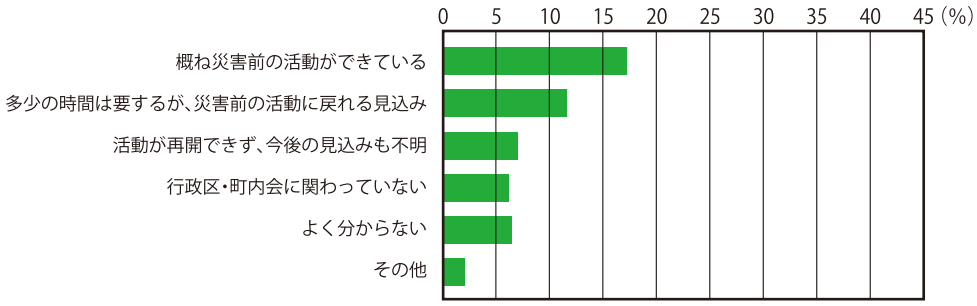


自治会の活動に求めること

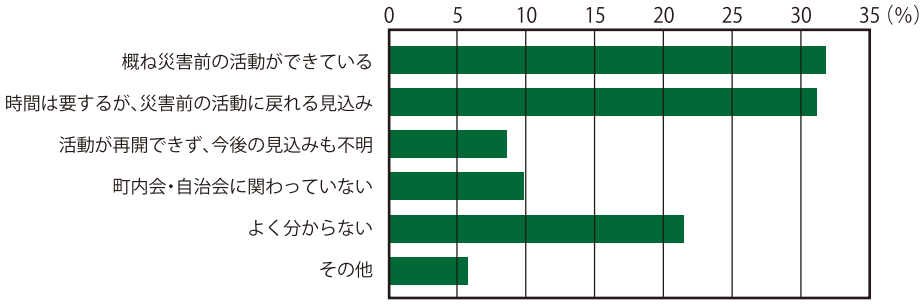


現在の町内会の活動について（※水戸市は2月時点、大子町は8月時点）

大子町

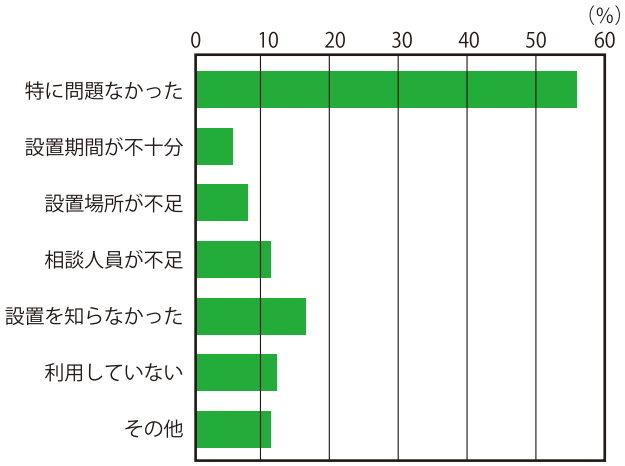


水戸市

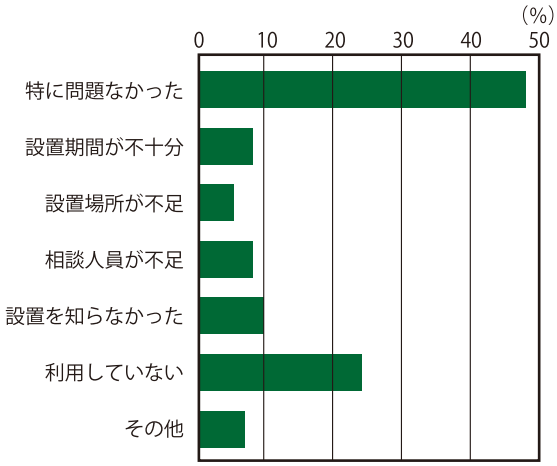


大子町の災害対応について

大子町 対策本部・生活再建支援総合窓口の運営について

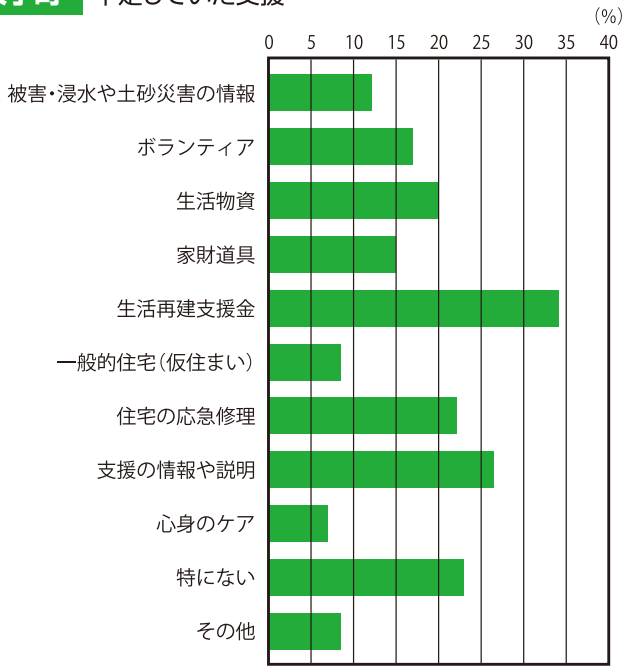


水戸市 対策本部・生活再建支援総合窓口の運営について

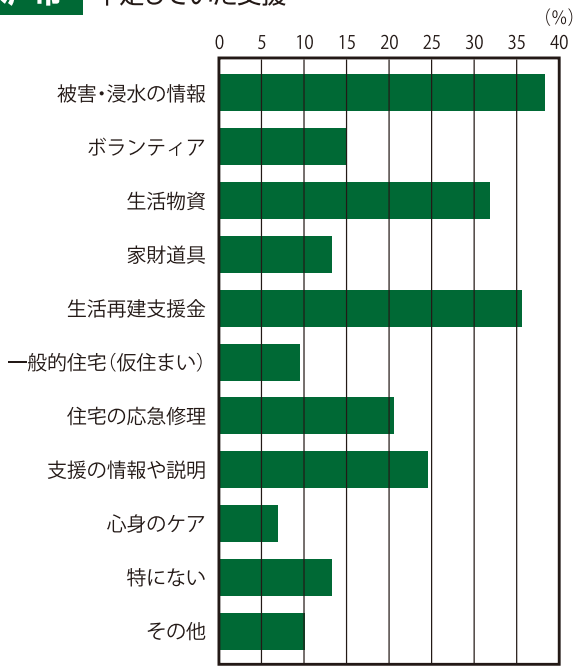


大子町の災害対応について

大子町 不足していた支援

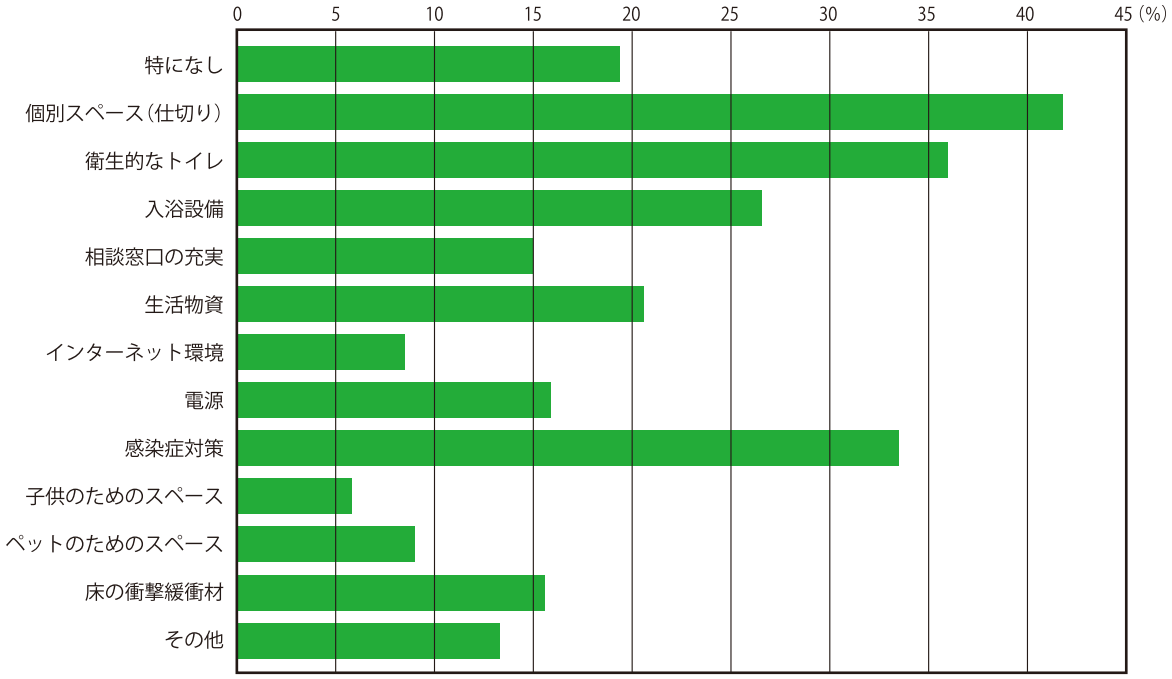


水戸市 不足していた支援



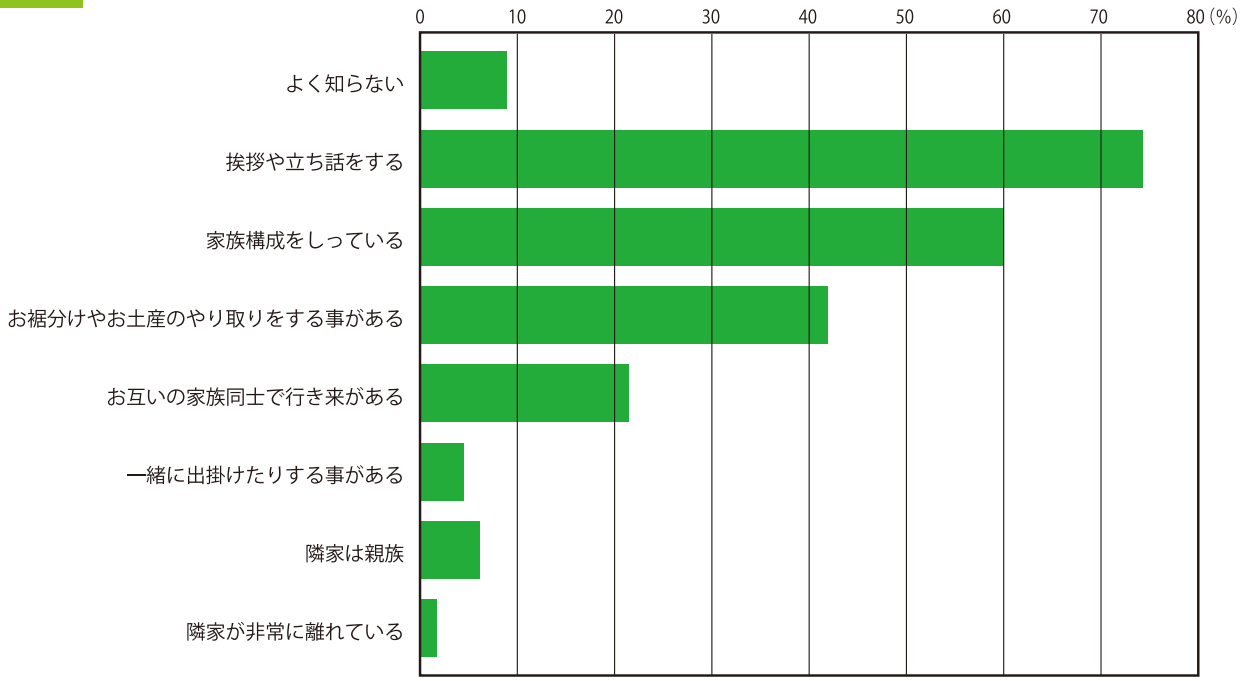
避難所生活について（大子町のみ）

大子町 避難所での良好な生活環境のために必要なもの



普段の近所づきあいについて（大子町）

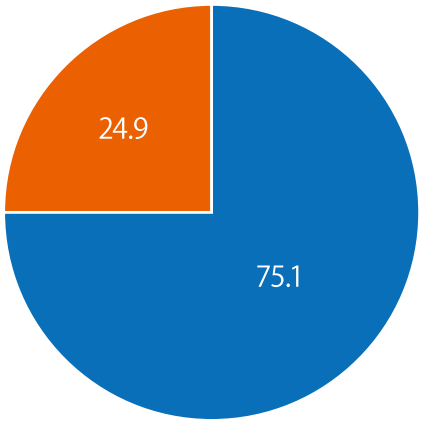
大子町 近所づきあい



災害前のリスク認知（大子町）

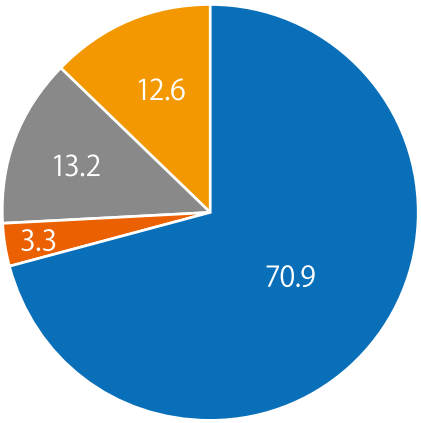
大子町

ハザードマップ確認状況



■ 確認していた
■ 確認していなかった

災害リスクの内訳



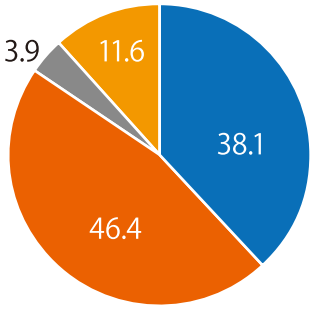
■ 浸水リスクのみ
■ 浸水・土砂災害の両方
■ 土砂災害リスクのみ
■ 災害リスクはない

※ハザードマップ確認者

災害前のリスク認知（大子町）

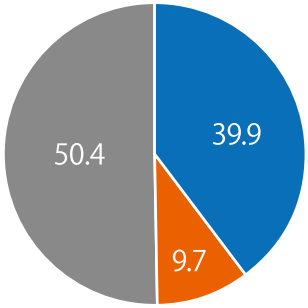
大子町

確認していた（浸水被害）



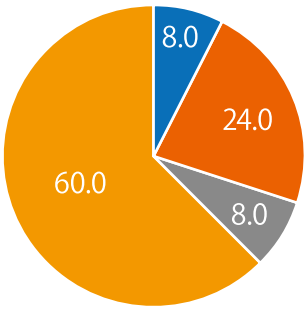
■ 1階に居住しており自宅外避難が必要
■ 2階までは浸水しない
■ 2階まで浸水する危険性がある
■ 浸水リスクはない

確認していた（土砂災害）



■ 土砂災害警戒区域内
■ 土砂災害特別警戒区域内
■ 土砂災害リスクはない

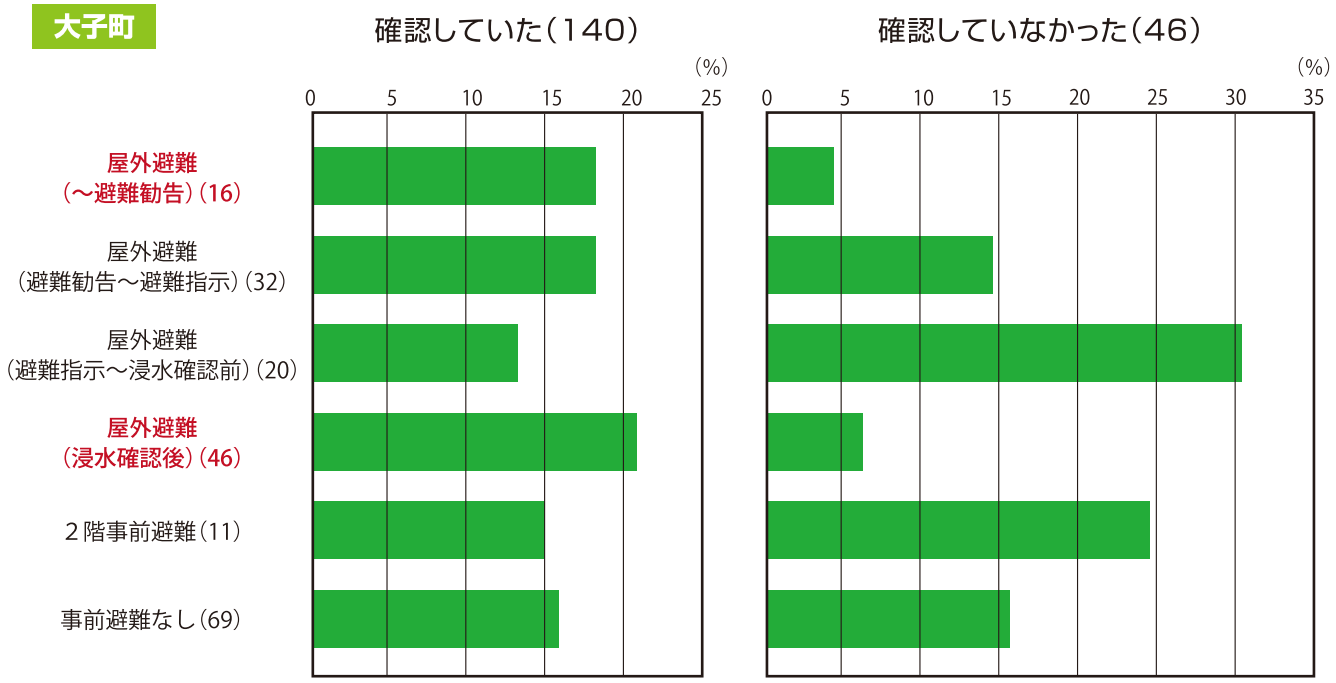
確認していない



■ 1階に居住しており自宅外避難が必要
■ 2階までは浸水しない
■ 浸水リスクはない
■ 知らない

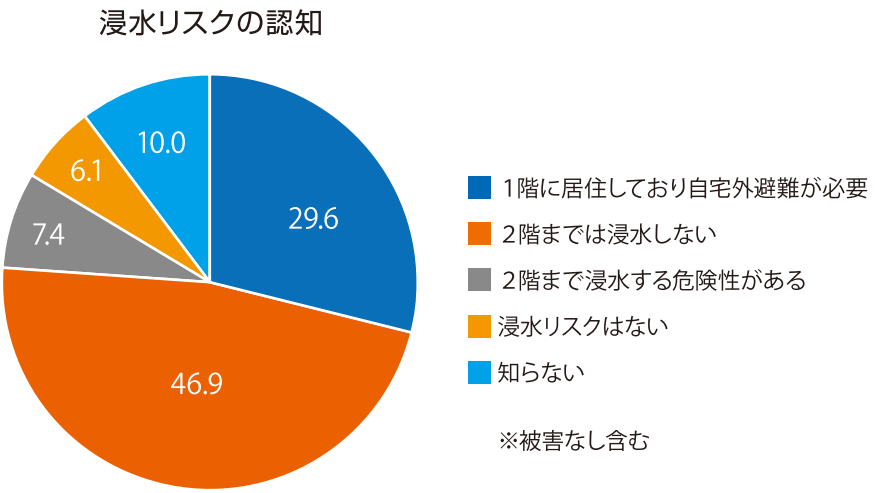
水害発生前のハザードマップ確認状況と避難行動（大子町）

大子町



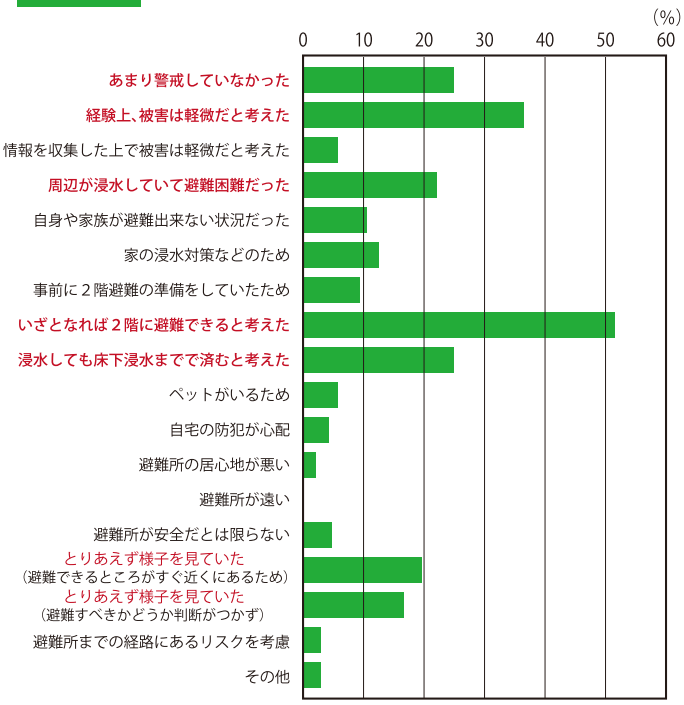
災害発生前の浸水リスク認知（水戸市）

水戸市

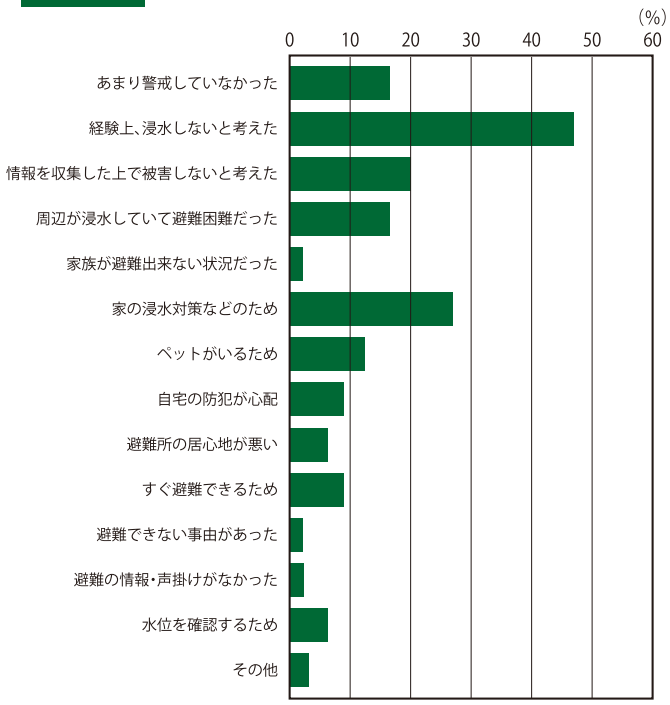


避難しなかった理由

大子町 避難しなかった理由



水戸市 避難しなかった理由



情報取得行動

情報取得源の分類

	テレビ	テレビ等の報道
デジタル情報	防災行政情報	緊急告知FMラジオ
		消防の広報車による呼びかけ
	公的な声掛け	消防による戸別訪問
	身近な人の声掛け	家族の声掛けや電話
		近所の声掛けや電話
		私的なメールやライン
	河川や浸水確認・周囲の様子	浸水や河川の目視確認
デジタル情報	エリアメール	携帯電話の緊急速報メール（エリアメール）
	防災アプリ	各種防災アプリ
	ホームページ	町ホームページ
		茨城県の防災や河川のホームページ
		気象庁や国土交通省のホームページ
		民間の防災情報ホームページ

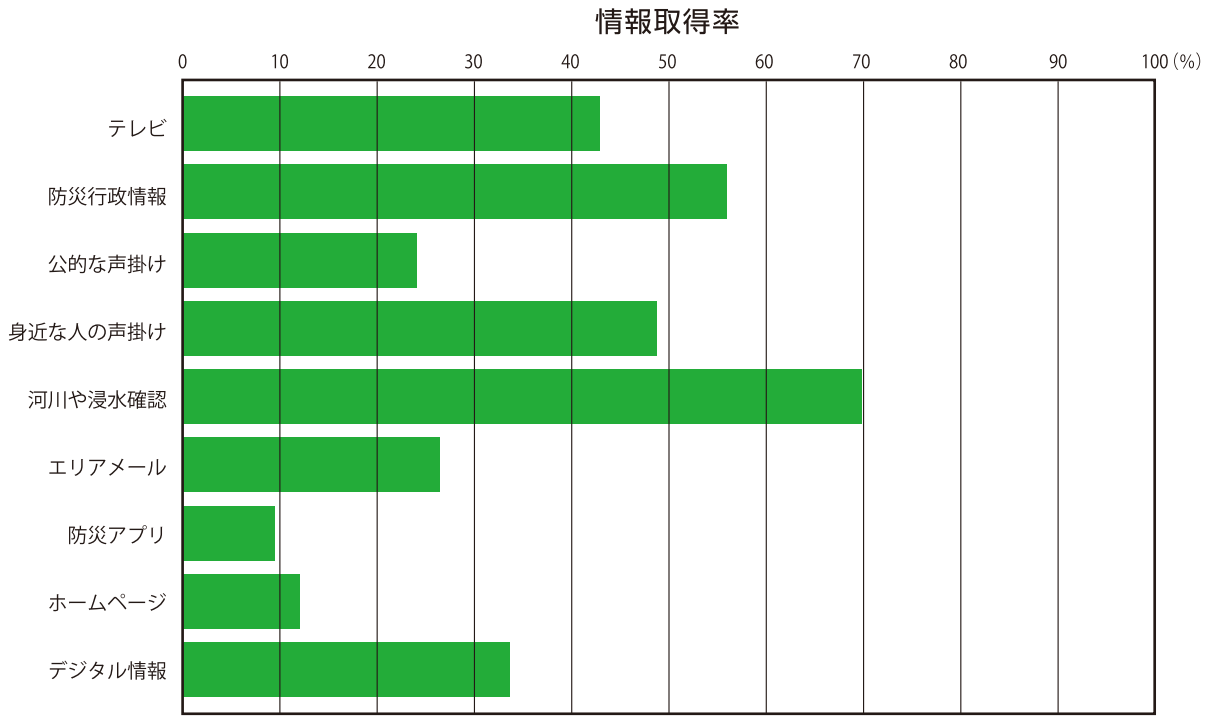
(a) 被災や避難の有無にかかわらず、災害発生前後の気象・河川などの情報の取得源

(b) 避難行動を起こしたきっかけとなった情報の取得源

情報取得率 ＝ (a)の割合

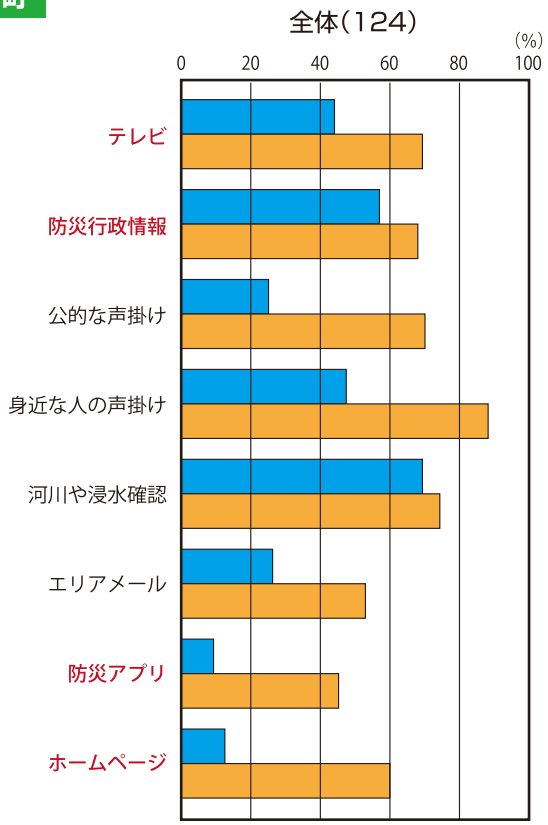
$$\text{避難行動誘因率} = \frac{(b)}{(a)}$$

避難情報取得率（大子町）

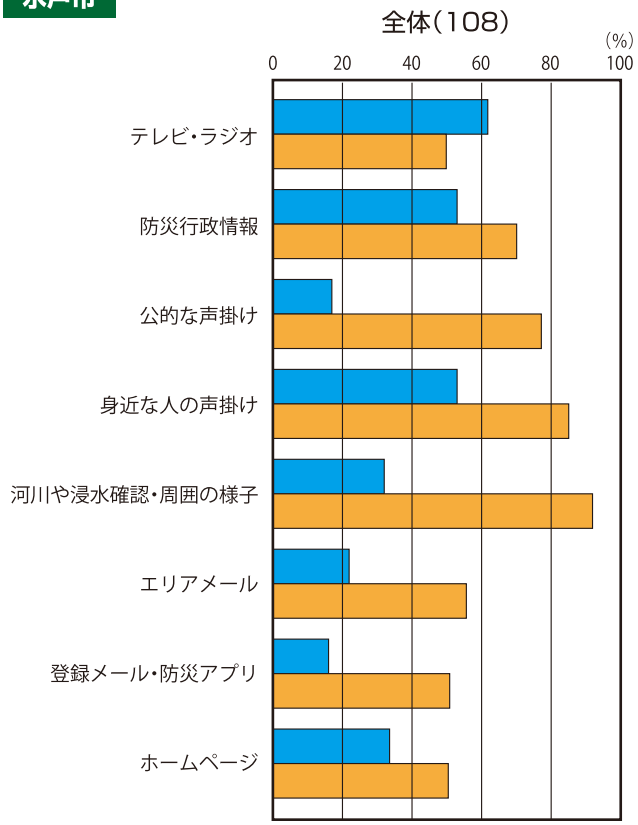


取得していた情報ときっかけとなった割合

大子町



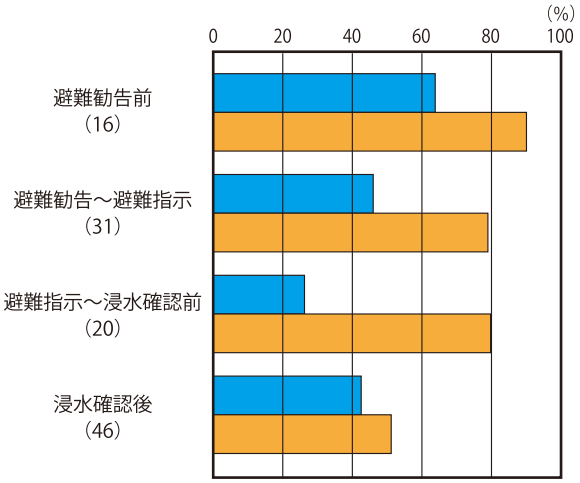
水戸市



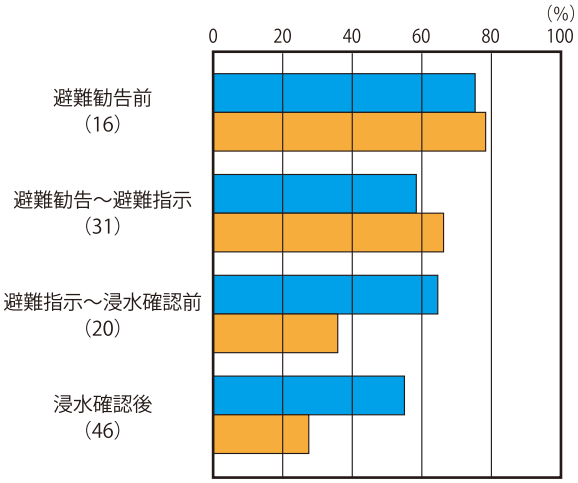
情報取得率　避難行動誘因率

テレビ・ラジオ

大子町

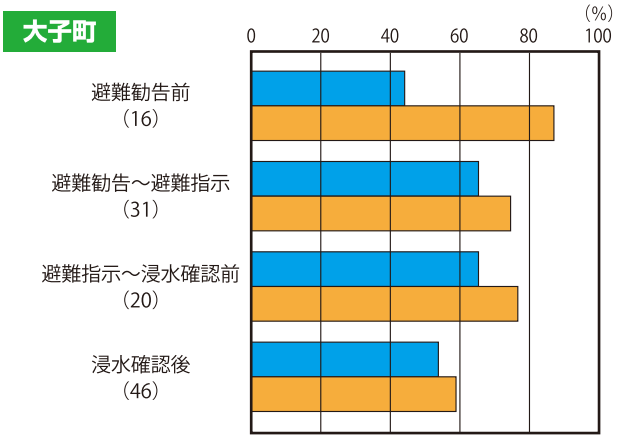


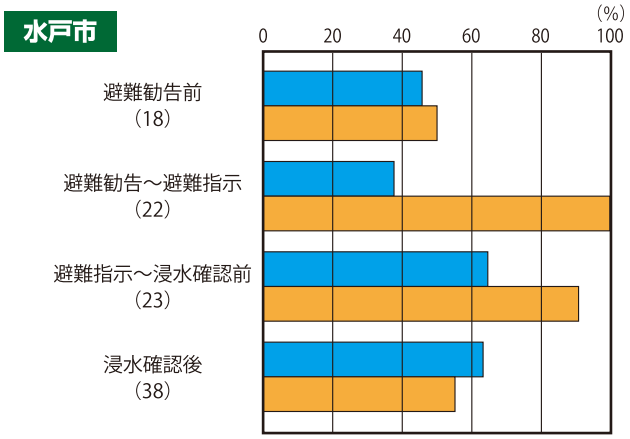
水戸市



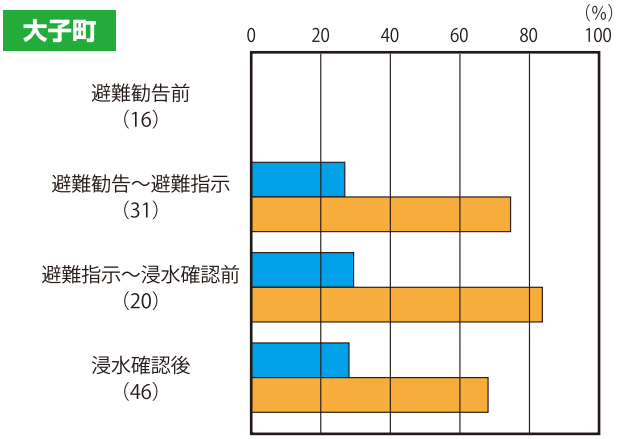
情報取得率　避難行動誘因率

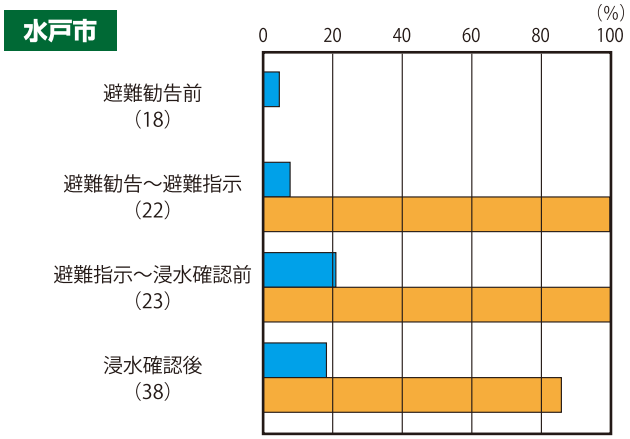
防災行政情報



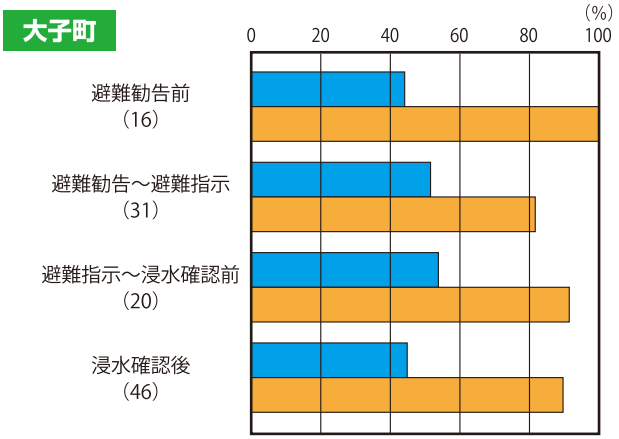


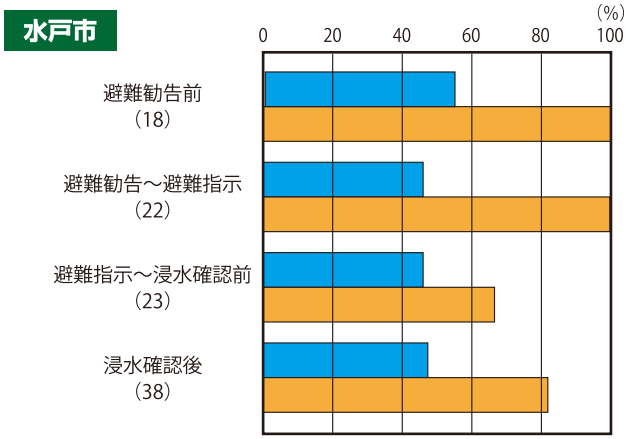
公的な声かけ





身近な人の声かけ

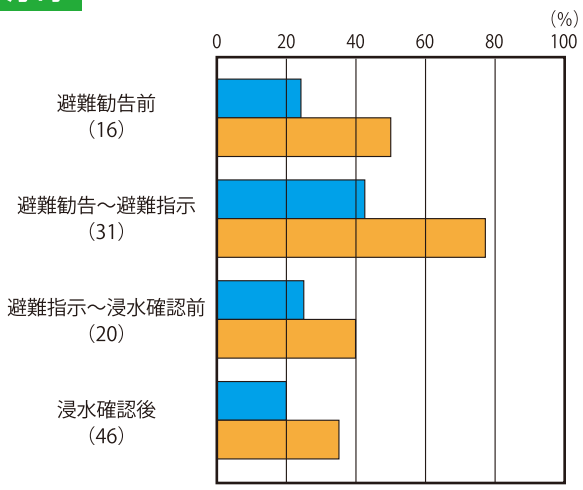




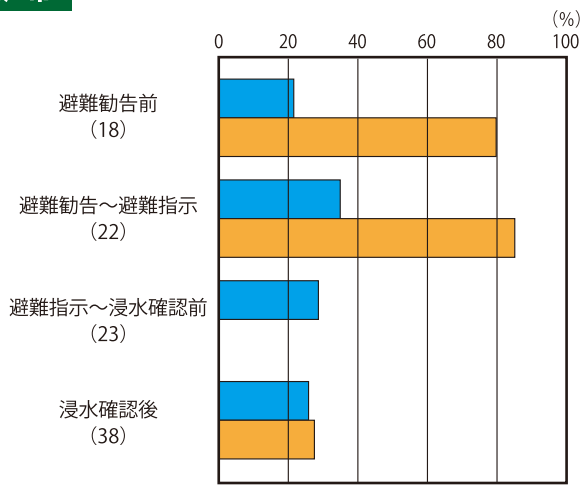
情報取得率　避難行動誘因率

エリアメール

大子町



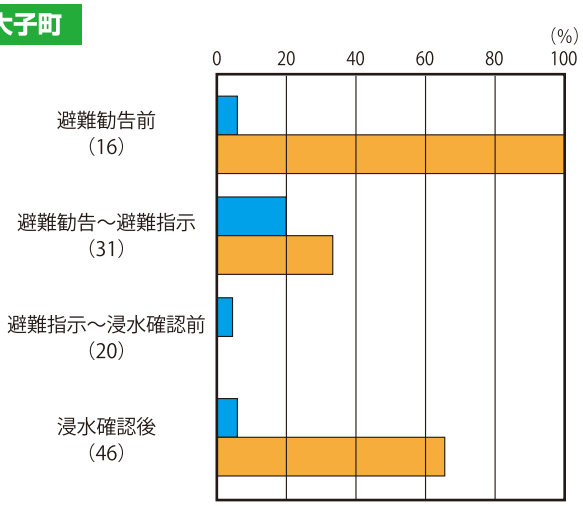
水戸市



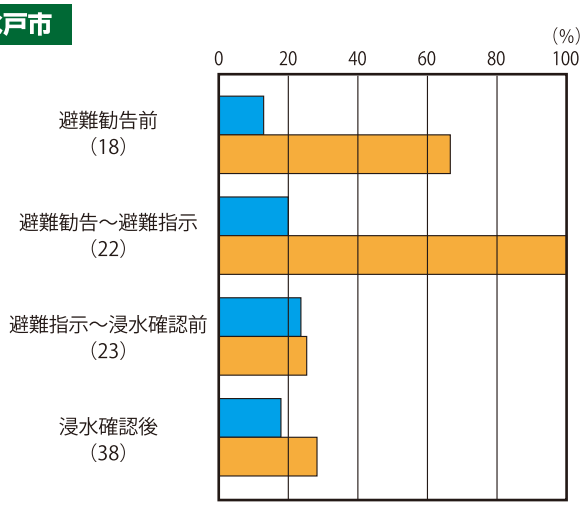
情報取得率　避難行動誘因率

防災アプリ

大子町



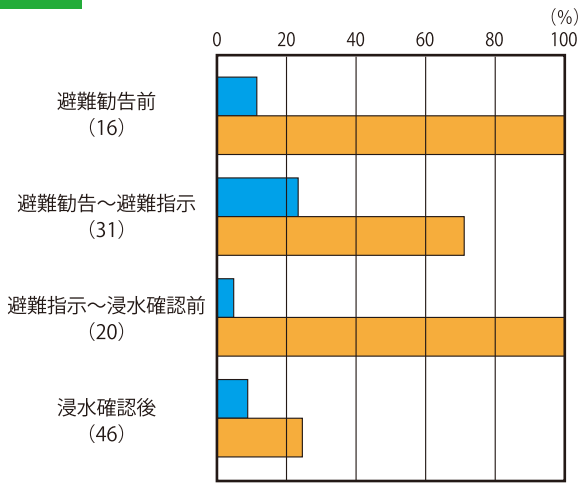
水戸市



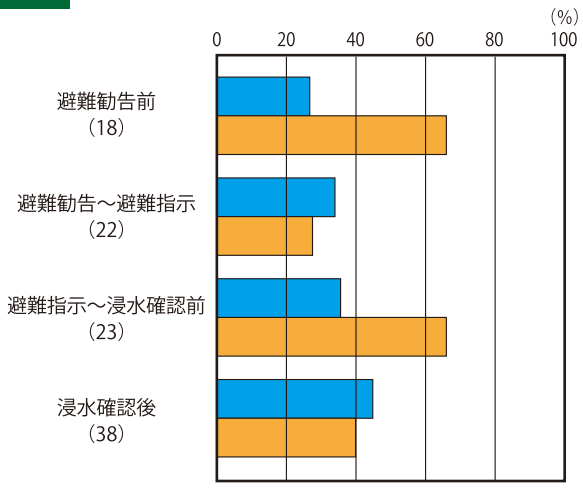
情報取得率　避難行動誘因率

ホームページ

大子町



水戸市



情報取得率　避難行動誘因率